

EL «ARGENTINDIJO»

PERIODICO SEMANAL EN JAPONES

Redaccion: USPALLATA 981

U.T. 23B. Orden 7051

AÑO VI

Nº 263

一九二九年五月廿五日

亞國獨立紀念

創刊滿五周年

亞尔然丁時報

NUMERO EXTRAORDINARIO

5º ANIVERSARIO DE SU FUNDACIÓN

1810 - 25 DE MAYO - 1929

目次



滿五周年紀念号發刊の辭	一頁	創立當時の思ひ出	十二頁
建國紀念日に際して	二頁	現代社會と 因襲的羞耻心	十三頁
亞國經濟界の現状	三頁	人生のかけら (小説)	十四頁
在亞同胞の現状及 將來に対する一考察	四頁	コスミン行記	十七頁
世界の將來を述べて 在亞邦人に寄す	五頁	歌壇	十九頁
オイアナルラ外相寄書	六頁	郷土私初恋 (小説)	廿頁
外相訪問記	七頁	内外時報	廿七頁
覚迷夢言	八頁	雜報	廿八頁
雲烟過眼録	九頁		
五月の旗 (詩)	十頁		

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.

B^{me} MITRE 559, ESCRIT. 505-6 B^{de} A^{de}

CASA MATRIZ
YOKOHAMA

CAPITAL SUCRIPTO E INTEGRAMENTE PAGADO
YEN 100,000,000.

祭 祝 独
記 立

横濱正金銀行

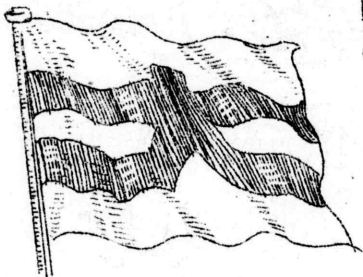
フエンスアイレス支店

パルロメ・ミートレ街 五五九番

エスクリトリオ 五〇五—五〇六

U.I. アウエニータ 二〇一五
U.I. 全 四二八八

祝 亞 國 獨 立 祭



大阪商船會社南米航路

マニラ丸 (二六〇〇噸)
 ハワイ丸 (二六〇〇噸)
 サントス丸 (二五〇〇噸)
 ラプラタ多丸 (二五〇〇噸)
 モンテピデオ丸 (二五〇〇噸)

大阪商船株式會社

フエノスワイレス支店

25 de Mayo 街 四三一番
 電話 レナイーロ 二八三五

OSAKA SHIPGEN KAISHA
 25 de MAYO 431 ~ U.T. 2825 Retiro

宗立独田亜祝
S. YAMADA Y CIA

IMPORTADORES

山

ALSIÑA

市内アルシーナ街二八〇。

田
商
會

U.T.
37 RIVADAVIA
0571

BUENOS

AIRES

宗立独



国豆祝

貝
原
兄
弟

CAFE TOKIO
DE

Haikara Hnos.

FABRICA Y
ESCRITORIO
HUMBERTO 1º
2013
U.T. 2243 B. ORDEN

SUCURSAL "A"
LAVALLE 1388
U.T. MAYO 6354
SUCURSAL "B"
Bº MITRE 349
U.T. AVENIDA 0153

東
京
珈
琲
店

FUJISAKI Y CIA

IMPORTADORES Y EXPORTADORES

SARMIENTO 459, P. 3º ESCRIT. 28 ~ 29

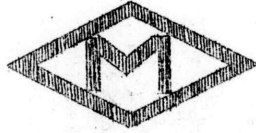
U.T. 37 RIVADAVIA 4459

29 SHIOCHO ICHICHOME
YOTSUYA ~ TOKIO
46 SUNYOSHICHO SANHOME
YOKOHAMA ~ JAPON

RIO DE JANEIRO
SAN PABLO
PERNAMBUCO
- BRASIL -

祝
独
立
紀
念
祭
藤
崎
商
會

祭立独



國亞祝

MATSUURA TRADING Co. LTD.

IMPORTADORES

ARTICULOS GENERALES DEL JAPON

LAVALLE 341 - ESCRIT. 107 - U.T. 31 RETIRO 0985

會商易貿浦松

KATSUDA Y Cia

IMPORTADORES

會商田勝

MEXICO 1432 - U.T. 38 MAYO 2313

祝
独
立
紀
念
祭

祝亞國獨立祭

横濱加藤合名會社

代理店

原商店

輸入部

ベルグラノ街二四七〇
U.T. マーヨ二四三八
U.T. リバゴア六六二四

小賣部

バルトロメ・ミートレ街一〇三〇
U.T. マーヨ七〇七二

DEPOSITO Y VENTA
WARNES 1750-54
U.T. 66 FLORES 3601

S. ANDO

VENTA Y ESCRITORIO
RIVADAVIA 770
U.T. 38 MAYO 1402

INTRODUCTOR DE
"KATOL"⁹⁹
MATA-MOSQUITOS

"KATOL"⁹⁹
POLVO INSECTICIDA

"MUSITOL"⁹⁹

MATA: MOSCAS, HORMIGA,
INSECTOS DE LAS PLANTAS
INOFENSIVO A LA SALUD

1810 - 25 DE MAYO - 1929

BAZAR JAPONES
DE

IRIZUKI Y USUI

RIOJA 1876

BUENOS AIRES

祝
独
立
紀
念
祭

白 入
井 月
知
則 武

1810-25 DE MAYO-1929

SADAO HATTORI

IMPORTADOR
ESPECIALIDAD EN ARTICULOS DE CEPILLERIA

服部定雄

市内リネールス街六四九
電話ミートレハ二一八

五月廿五日

祝
愛
國
獨
立
祭

LINIERS 649

U.T. 62
MITRE 8218

1810-25 DE MAYO-1929

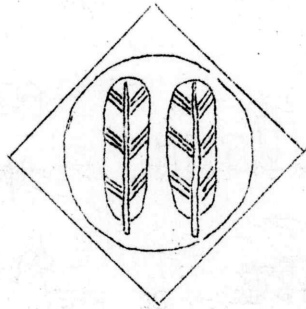
"EL TOKIO"

TINTORERIA JAPONESA A VAPOR Y A SECO
DE C. MIYAZAKI

CASA CENTRAL
CORRIENTES 2580
U.T. 47 Cuyo 3507

SUCURSAL
SANTA FE 2500
U.T. 44 Juncal 5609

SUCURSAL
TUCUMAN 882
U.T. 35 Libertad 1898



B? A?

主人 洗濯店「東京」
宮崎惟光

祝
獨
立
紀
念
祭



✿
✿
 祭立独  國亞祝

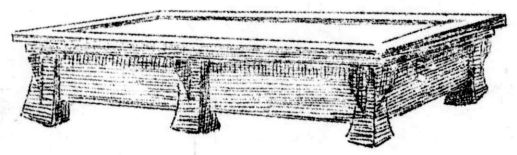
FOTOGRAFIA KASAYHINOS

✿
✿
 寫真館
 葛西春峰

CALLAO 1457 - B^o A^o - U.T. 4563 JUNCAL

1810-25 de Mayo-1929

BILLARES "BRUNSWICK"



BARANDAS "MONARCH"

Material preferido en las casas de primera categoria

VENTA A PLAZOS
SIN RECARGO DE PRECIOS

CANGALLO 1818 - B^o A^o - U.T. CUYO 0240

CAFE TOKIO

M.K. MIHURA & CIA

CASA MATRIZ MERCEDES F.C.O.
(U.T. 191)

SUCURSAL No.1 JUNIN F.C.D.
(U.T. 192)

SUCURSAL No.2 LUJAN F.C.O.
(U.T. 100)

SUCURSAL No.3 PERGAMINO F.C.C.A.
(U.T. 151)

祝 獨 立 紀 念 祭

カフエ東京

本店 メルセデーヌ市

電話 一九一番

支店 フニン市

電話 一九八番

支店 ルハン市

電話 一〇〇番

支店 ペルガミーノ市

電話 一五一番

三浦合資會社

重不然丁時報

滿五周年紀念號發刊の辭

光輝燦爛たる亞國建國紀念の日と日と同じうして吾々重不然丁時報は茲に創刊五周年の紀念日を迎ふるは吾人の誠に光榮とし欣快に堪へざる處である。

正義自由の雄叫びが亞國革命の尊火線たり、永遠に亞國々民の胸底に流る、亞國魂たるが如く、創刊以來過去五ヶ年を通じ、本紙の生命として終始一貫し來るもの、又正義の高唱、言論の自由が絶叫である。

言論代表機關として、いささかなりとも對社會的に貢献し来りしことを顧み自ら其の敏びを感ずるものである。

吾人は其の奉仕的使命に忠ならずんが爲めには、ジャコブ・リッスムの打算的計數を一切除却し、社會善行の論理に立脚し、全權に媚びず官僚に阿ねず情實に曲げず、時として物質的窮境に陥入ることも自ら覺悟して敢然と吾人の主義主張を断行せり。

なるを知りつゝ、直言を公表せり。然りと雖も忠とは單に侍するの謂ひならず、忠とは我思ふ所、眞率に赤裸々に純真の心も吐露するを言ふ。

既に於ける對公館問題、對日會問題、共に吾人は其の職責に忠たらしめ、時には未誠を建言し、時には諷刺所

らぬ多くの使命を與へられてゐる。理想あり、抱負あり、吾人の行手は多事にして多端あるを思ふのである。

全ふる心身を養成して、植民の大業を完ふせしめんが爲、運動を奨勵し來りし處である。而して吾人の前途は尙遠く、

HIMNO NACIONAL ARGENTINO

CORO

Oid i mortales! el grito sagrado:
Libertad, libertad, libertad!
Oid el ruido de rotas cadenas
Ved en trono a la noble igualdad.
Se levanta en la faz de la tierra
Una nueva gloriosa nación,
Coronada su sien de laur eles
Y a sus plantas rendido un León.

Sean eternos los laureles
Que supimos conseguir,
Coronados de gloria vivamos
O juremos con gloria morir.

Desde un polo hasta el otro resuena
De la fama el sonoro clarín,
Y de América el nombre enseñando,
Les repite ¡Montales! Oid:
Ya su trono dignísimo abrieron
Las Provincias Unidas del Sud!
Y los libres del mundo responden:
¡Al Gran Pueblo Argentino Salud!

建國紀念日に際して

天地水を象る青白の國旗
 秋天高く翻々として舞へる
 今日、五月廿五日、亞國獨立
 紀念祭と亞國に住する一
 買として茲に謹而敬意を
 表するものなり。
 回顧すれば一八〇〇年獨立
 自由の大旗を高く押立て、
 建國の大業を完成して、
 爾來百十有餘星霜の歳
 月悠々流れ來つて極りある
 洋々の彼方へ流れ去る。
 天惠豊かの大亞爾然丁國
 の前途を想ふに吾れ又、
 等しく亞國萬族の聲に和す
 るものなり。

融然たる新興
 文明を建設せ
 るものであるが
 其の中隨として
 今日の大を成し
 たる所以は正
 義と自由と求
 る愛國の純情に燃ゆる
 革命志士の熱と力とが其の源
 泉であり斯は永遠の生命
 として國民の魂の底にひそ
 むものである。
 かりながら順潮に指して斯
 く進展し來れる亞國の今日
 尙同祭すべき多くを有する
 幸多き行末を恵まれたる
 國ふると共に多端にして將來
 多事の國家である。
 換言せば亞國は模倣文化
 の建設時代より脱して独自
 文明の建設に移るべき時代
 であり、外新嘗膳、民族の自
 由獨立を求め希ふて遂に
 壓制治下の羈絆を脱した
 る如く、誤られたる西政文明
 の壓迫、苛酷なる改米先進
 國の資本主義の羈絆を脱す
 べき既成文明への革命、不合理的
 なる改米資本主義への革命
 が新時代の亞國民に與へら
 れたる責務であらねばならぬ。

其二の母國として斯の國に住
 住し豊かなる生活の恩恵に浴
 する吾等、對亞國への親和
 融合斯れ元よりながら更に
 未るべき亞國の新時代に想
 と廻らし亞國々民覺醒と共
 に新時代へ進出する日の
 斯の責をも又分ち擔ふべき
 ものなるを痛感するものな
 り。
 斯く觀じ來る秋、吾人は
 徒らに事無きを希ひ是非
 の別なく統々を阿ねる盲目
 的の同化論者の遺蹟主義
 を若嘆し排するものであ
 る。
 海外に在つては殆んど全く
 隨波逐浪の主義の外に
 吾が祖國文化は他に誇り
 斯れに移植すべきものあら
 ざるべきか？
 象徴主義的、日本民族の
 精神文明の品位と光輝は
 世界何れの國に斯れを求
 め得んや。
 眞の意味の同化とは彼の長
 を限り秋の短を補ふの意で
 有るが如く、彼の善を見ては
 吾が善と希ふこと共に彼
 の不善を見ては吾が善を傳
 へて斯れを矯正するに有り
 但だ我側に笛吹くものあり

ば吾れ歌ひ、我側に歌ふもの
 あれば即ち踊るとなふが如く
 他の調子に連れて自らを余り
 に卑下して持する所以を知ら
 ざる雷同論を嫌厭するもの
 なり、吾人の理想とする植民
 大綱は移住地の同化にあると
 共に文化の貢獻にあり更に香
 り高き大和民族文化の移植
 にある、附和雷同のふを以つて
 植民の眞義、本末を誤るが如
 きことあらざる様常に心せむ
 ことを希ひ願ふものである。
 清爽の秋天に巍然として聳
 ゆるアンデスの麗峯と青次の
 平原を望しふるパンパスを望む
 洋々限りなき亞國の前途を
 心より祝福し、日亞國交の愈
 々親善ホらんことを祈つて
 擲筆す。

祝獨立祭

在アスンシオン
 福岡庄太郎

祝獨立祭

田村良雄

祝獨立祭

谷貞一郎

祝獨立祭

蔭山 茂

亞國經濟界の現状

横濱正金銀行、エヌアイエス支店長 田村良雄氏(談)

亞國經濟界の現況は最近小麦市價の暴落に伴ひ益々不況の度合が深刻になりつゝある。元來、當國內地に於ては農家のウニズンが、小麦輸出調節機関が欠けてゐるが爲めに所産の努力に依つて出來た生産物の利益と云ふものは殆んど之れが仲介者に吸収せられて了つたのである。

一例を挙げると、当地穀物取引は *Oil tygar price* に依る場合多く、之は農家が仲買人に賣る場合には二ヶ月先の見越した値段で賣約し、その八割の金額を受取るのである。その金額に対しては利息を拂はなければならぬので、破産の收得する利益といふものは僅少なものである(但しこれは全般に亘つての例ではない)。

然して今回の如き暴落を来たした場合は農家は勿論仲買人も共に非常な窮境に立たなければならぬ。

これに反して加茶院方面に於ては農業者間にウニズンの組織があり、貯蔵倉庫をも備へて

輸出の調節を計つてゐるから、従前前者は假りに生産過剰の場合とが市價不況の暴落に當つては、農家は倉庫に小麦を渡すことに同時に在庫證券を受取り、要に應じて在庫證券を以て金融の道を講ずることが出来る。更に又買手あれば在庫證券に依つて小麦が直ちに賣買される。更に亞國輸出の大案たる小麦の暴落は對外的に見ればペンの弱値となり、國家として非常な損失である。その上、經濟及倫理に於ける金利が高いつて、外資輸入も困難な状態に益々亞國經濟界を不利なる立場に導くものである。

又之れを對内的に見れば地方の購買力欠乏は直ちに都會の不景氣を意味するものであつて、人氣にも非常に關係する。この上、茲に斷言的には云へないが、密輸入が盛んで、それが絹物ばかりでなく一般輸入品にも及んでゐる。その結果であるが、近來一般商品の値段は急激なる下落を示してゐる。

如斯密輸入等に因る不合理

かる市價の下落に依り、尤も影響を受けるものは、眞面目な商人であつて市價に順應し止むべく投資しねばならぬ立場に陥る場合がある。

述上の諸條件を以つて推測するに亞國經濟界の前途は今の一寸曙光が見出せぬ状態に在る。

それから日亞貿易であるが、昨年は約九百萬ペンの輸入があつたが、これは決して常態とは云へない。入り過ぎると思はれる。即ち市場消化量以上に輸入されてゐる。

各商店が大体に全じやうな品物を多く入れてゐるので、従而市場在庫の過剰が、卸商間の競争を生む結果となり、遂に値段が崩れて結局失墜といふやうなことになる。今後日本商品も特種のものを入れることに努力して、新築を開拓せねば將來益々行き詰るばかりと思ふ。

同志打は結局トルコ商人辺りに漢夫の利を得られることにかゝる。

將來に於ける日亞貿易の伸展策として、卸商間にシンジケートの如きものを成立せしめて互に價格を維持することに努むなくてはならぬと思ふ。

曾て私がシドニーに在勤中、卸商間に絹物シンジケートを作つて

投げ賣りを防いだ事があるが、裏切るものが出て結末が、ろくも破れた例があるが、日亞貿易百年の大計を想ふものあらば、蠅牛角上の争を止めて、共同の利害といふ事に意を致さふいこと、日亞貿易の前途は実に寒心に堪へないものがある。

如斯意味で自分はシンジケートの如き共同作戦を提唱し、卸商間に斯れの成立せられん事を切に希ふものである。

然して斯れの中軸とし、若しくは指導機関として商務官の設置は必要であること、私は認めてゐるものであるが、單に統計報告の如き仕事の謂ひではなく、英米の商務官の其れが如き活動的のものであることを條件とした。

終りに臨み、独立祭に際し、大亞爾然丁國の國運の隆盛と日亞國交の益々親善からん事を希ふものである。(在文責記者 完)

祝獨立祭
工藤金也

祝獨立祭
稻尾孝樹
出口貞三郎

祝獨立祭
小栗清

1810 25 DE MAYO 1929

原田四郎	松井莞爾	田中長造	横堀三四	岩崎次郎	能勢忠平
竹原太郎	田中数好	橋本辰喜	梶田修市	黒川廣	秋葉兄弟
東利作	金澤清	岩岡利作兄弟	紺野忠助	本田儀平治	渡辺安右
岩住玄伍	徳門清英	上田平作	杉本清次郎	箱石珠一	北川稔

祝 独 立 紀 念 祭

高橋坂衛	塩澤長助	望月豊吉 <small>市内ベルグラ街一四七〇</small>	仲間平助	廣瀬寛治	大垣俊雄
<small>新日本園</small> 河野通也 <small>市内カビルド街三四〇</small>	日高喜作	有水藤太郎	福田勝市	相原茂雄	伊藤清藏
<small>ベルガミニー市</small> 久慈忠	福富純	内藤鶴雄	<small>ベルビージエ</small> 桐原茂	荻野定男	佐藤金一
坂本倉太	道源宗一	河野残星	羽生兄弟	石原生	石川芳敏

祝 聖 國 獨 立 祭

杉本隆治	門田雄吉	森川與十郎	本田次郎	大井得二	本間鉄雄
井口 崇 <small>トクマン市</small>	原田静雄	橋本又市	脇水鉄弥	井上楫之助	安田敏三
吉田 富	田中菊次	岡田領治	大林多吉	岩本正之進	全 崎間麗德 裕 司
田中乙吉	藤井精四郎	鈴木驥一郎	山本 玄	服部宮治	坂本新吾

祝 國 獨 立 紀 念 祭

在 亞 日 本 人 小 學 校	在 亞 日 本 人 園 藝 會	在 亞 蔬 菜 園 藝 同 業 組 合	在 亞 農 業 研 究 會	在 亞 日 本 人 會
日 本 庭 球 俱 樂 部	在 亞 農 業 青 年 會	在 亞 日 本 人 棉 作 協 業 組 合	在 亞 北 進 會	在 亞 日 本 人 自 動 車 運 轉 手 協 會

NIPPON BASE BALL CLUB

祝 獨 立 紀 念 祭

五 月 廿 五 日

日 本 野 球 團

25 DE MAYO

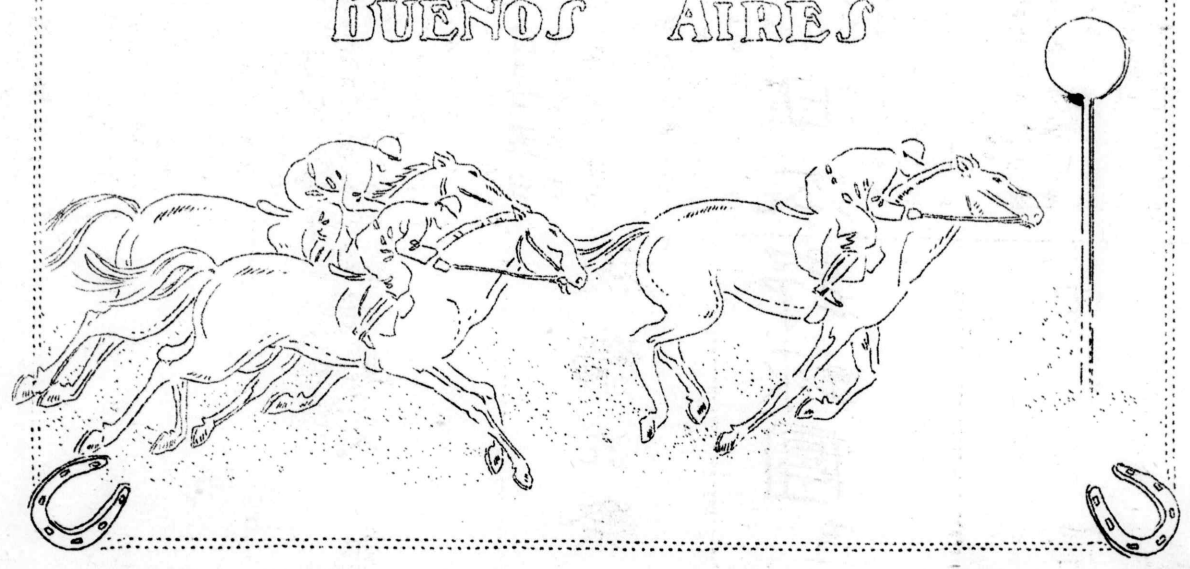
1810 1929

TINTORERIA
BOTAFOGO
DE

T. FUNAY

ENTRE RIOS 215
U.T. 7740 MAYO

BUENOS AIRES



在亞同胞の現状及將來に対する一考察

大阪商船株式會社「エスアイ」支店長

天嶋群平氏(談)

吾々は生を享けた天地を祖国として愛する様に生を営むに於ても可成り其の國民と親愛の情を表して行かねばならぬ。斯る意味で當國獨立紀念祭は吾々も心から斯れを祝ひ度いものである。

而して斯れを機會に天恵豊饒な亞國に在る我同胞諸君の現状及將來に就いて考察し、いさか意見を具陳して見度い、最近よく耳にする問題は都會集中の弊と云ふ事に關連して在亞同胞諸君の職業問題であるが、私は日本人間に職業者が多くても職業を自ら自身の性質が日本人に適して居るものであれば一概に斯れを難むべきではないと思ふ。

吾々は自己の特性を生かして行くことが最も大切であると思ふ。

たゞ都會集中云々の問題は、人間の本性其自身が社交生物

であり、荒野の單獨よりも複雑で華麗な都會生活を慕ふことは止むを得ない。

好例を以ては白濱に見る。英政府は植民政策と濠洲の富源開拓の爲、年々莫大の費用を投じて英本國から多量の移民を濠洲に向け送つて居るが、移民船がシドニーに到着し、移住民が到着と共に直ちに汽車に乗せて田舎へ輸送して仕舞ふのである。

斯れは一日でも都會と云ふものに親しませると田舎へ行くことが嫌にふると云ふ懸念からであるが、斯の様に送られた移住民は彼等移住民の中、数年後に於て田舎に止つて居る者は誠に僅少である。土地の無代貸與其の他色々の好條件があるから三四年の間は大體辛抱するが、其の中天候の不良等及其他に災されて仕事上の障害に逢着すると忍ら田舎を捨て、都へ逃出して仕舞ふ。

從而濠洲五百五十萬の人口中

シドニー、メルボルンに二百五十萬集中、其の他の小都會の人口を差引いて田舎に農業目的で止るものは堪だ少い。

前記の移民でも結局田舎へ残るものは幾位も無いが、其れでも多少は残るので年々同一の事を繰返して居る。

斯れは單に都會生活の憧れと云ふより、變化を好む人間の本能的問題であり、特に近代人の中には自己の生活を営むに於て可成り強烈な刺激を絶へず受けることを希んで居る者もある位だから斯の問題も程度問題であるが、たゞ吾々が有度な問題は北米のクリフオールニアとか又は隣國ブラジルに於て相當成功して居られる同胞諸君の業績の跡と出つて見ると何れも一歩の職業に永い間勤勉に従事して居ると云ふことである。

斯の支は在亞同胞諸君にも他山の石として大いに心する價値があると思ふ。

故國を後にせらる、時は誰れにも非常な高遠の理想と堅い決心があること、思ふが當國に渡つて二年三年と経過する中に切迫した日本の生活に比較して亞國の生活は容易であるから、其れが災してロマンティックなラテン民族の性行を模倣し可成りデカタンな生活

活を追求せらる、邦人諸君が相當あることは誠に遺憾なことである。

色々の方面から亞國に於ける成功難と啣つ声と聞くが、吾々は後方に啣く前に進み、自己の過去の進り、現在の歩みと省みて見たい何故に自己の業績の等らぬかを熟考し、若し欠けたることあらば斯れを補ひ、誤れることあらば斯れを改め、自分の職業を愛して斯れに自己を打ち込んで絶えざる努力を続けたらば、吾々の將來はまたく開拓の余地もありもつと、明るい希望も興へらる、事と想ふ。

亞國は洋々として限りなく輝いて居る前途に恵まれて居る國である。

吾々も自己の職業に絶へざる努力を捧げると今時に進んで何故か反省心を忘れずに進んで行くならば必ずや善い收穫が酬はられると思ふ。

勤儉、忍耐、努力何れも平凡過ぎる程平凡な言葉であるが、真理とは概ね平凡の中に含まれて居ることを覚悟せねばならぬ。

慶賀すべき亞國建國紀念祭に望み亞國の隆盛と日亞國交愈々親善なることを希ひ併せて在亞同胞諸君の御健勝を心から祈る。(在文責記查)

吉橋好太郎

宮崎八郎

祝獨立祭

天野宣直

田川清

ヴィジヤ、マリア

特別寄稿

亞爾然丁時報五周年紀念に際し

世界の將來を述べて

南米在住邦人に寄す

月峰散士

(註) 本篇の筆名「月峰散士」とは「日本及日本人」誌上に既に東京諸新聞紙上に何々噂々の論を發表するに以つて祖國言論界に知らるる人でありませぬ。本誌に對し好意を有せらるる、或は昨半年紙脚大禮奉祝号に我國の便命は海外發展に在りし一文を寄せられ、今回再び本紙五周年紀念号のために遠く此の玉稿を寄せられた。茲に序でふがら月峰散士の即厚意を深く感謝致します。

太陽熱や地心熱が冷却して此地地球上人類の生息を許す可くする様子が遠く未來ではなく、又は科學の發達が隨意に人間を製作し得たり、火屋など他の星と通信や交通をなし得る空想の將來ではなく、遂に或る星の間に近き將來に確實に來るべき世界の趨勢を考察して世人の参考に供し度いと思ふ。

人類の繁殖と人口の増進と此の地球を喰ひ盡してしまつた。而して喰ひ残りの地球を再び喰ひ廻らうとして居る。亞細亞が世界文化の發祥地であつた事は餘りに遠い過去であるが、政羅巴と地中海が世界歴史の中心であることも既に過去のことなりつゝ、今や大西洋と北米の天地に舞臺は一轉して去り、更に太平洋上に廻轉せんとして居る次第である。伴ひ現在の舞臺は科學と物質とを必須の背景として居る。

政羅巴の天地は此の背景と爲すに足らなかつた。而して此の舞臺で踊る處の人類は羅倫人種から「サクソン」人種に変わつて行つた。今は歐州の資源の豊富と科學の進歩に導かれて居る北米人種が全盛を極めて現代の舞臺に踊り狂つて居る。

果して夫れが何時迄継続し得るであらう。北米の資源も無尽蔵ではあり得ない。亞米利加人も羅馬の轍を踏まないで誰れか云ひ得やう。

舞臺は廻轉せざるを得ない事は當然の帰結であつた。然るに。

人類の繁殖と人口の増進と古の農業時代から中西の通商時代、更に近世の工業時代に達して來たのである。工業時代即ち科學時代であり物質時代である。

物質時代である。物質時代は農産物に依つた材料の大部分が農産物に依つた材料に依つた状態に在る以上農業は天張り依然として生活の大本でなければならぬ。動物性又は植物性の食料や衣服が礦物性の衣類や食料となり得るにあらざれば農業は民の司令である。

農産物の發する處窮極するに主觀的のものでなければならぬ以上、精神文明を措いて他に安住の地を求むる欲にも參らぬ。此處に於て余は思ふ、舞臺は將來に農業と精神文明の背景に彩られんとして居る。

此處に於て余は思ふ、舞臺は將來に農業と精神文明の背景に彩られんとして居る。此處に於て余は思ふ、舞臺は將來に農業と精神文明の背景に彩られんとして居る。

生活の歴史と人類の増進は到底止むを得ないものである。底土を何時迄許すべきであるまい。死んや亞爾然丁の沃野天に捧ぐるの荒々たる平野に於てをやである。

故に余輩は切に痛感する將來の舞臺は南米と太平洋に在る。而して再轉して太平洋と亞細亞に廻り、此處に活躍すべき主人公は吾が大和民族でなければならぬ。

滿州に於ても、西比利亞に於ても又南洋に於ても永遠に我民族を收容し得る餘裕はない。其の最も可能性のあるものは新大陸であり南米である。血未だ國青年の中心に此處に醒めて中學を卒へ直ちに南米の地に渡航して自己新生命を開拓せんとする勇士を聞く。

少壯熱血の士何と苦んで生活難と就職難に涙られて居る。猶頼大の母國に躊躇する心幸はふ。

大和民族の將來は正に南米に在る。大和民族同族の大先駆者たる在りし南米幾千の同胞諸君、願くは邦家の爲健康をせられん事を。

祝亞國獨立祭

松田五郎

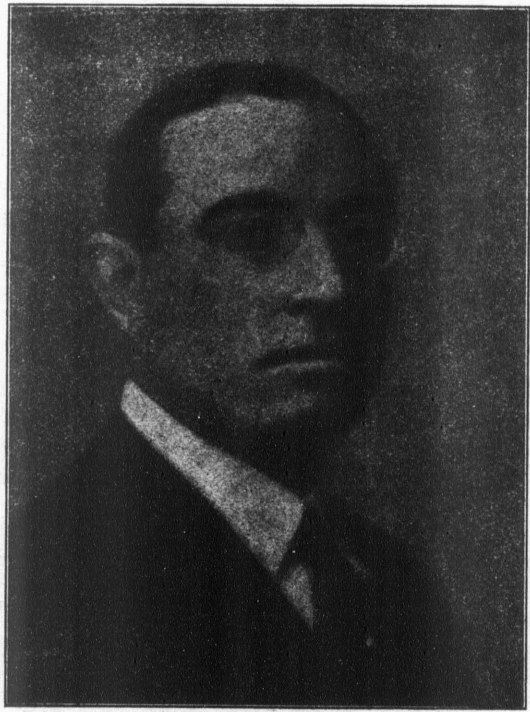
大山綱國

(完)

MENSAJE DEL Dr. HORACIO B. OYHANARTE

Canciller del Gobierno Argentino, dirigido a los Japoneses residentes en la República Argentina en ocasión del 5.º Aniversario de la fundación de El "Argentin Djijo".

Llegue por intermedio de El "Argentin Djijo", un afectuoso y sincero saludo a la colectividad japonesa radicada en la Argentina, representante de un pueblo que ha incorporado nuevos valores a la civilización contemporánea. Representantes de una raza, a la vez práctica y soñadora, encuentran entre nosotros sus hijos amplios



Dr. HORACIO B. OYHANARTE
Ministro de Relaciones Exteriores

derroteros para ejercitar en el trabajo su perseverancia y su ingenio. Nada evoca mejor al Japón, en su doble característica de espíritu romántico y legendario y de potencia moderna y mun-

dial, que las palabras consignadas por el Príncipe Shirakawa en ese código caballeresco que es el "Bushido" cuando escribe: "aunque lleguen oculta-mente a vuestra cabecera, en el silencio de una noche de insomnio, no apartéis de vosotros, sino recibid con cariño, la fragancia de las flores, el sonido lejano de las

campanas y el canto de los insectos en una noche de invierno".

本紙創刊五周年紀念に際し
 亞國外相オラシオ・オイアナル博士より
 在亞邦人に寄す(邦譯)

現代文明に新價値を附與せる國民の代表となりて亞國に在在する日本人諸子に向ひ予は茲に亞爾然丁時報紙を通じて深甚なる敬愛の情を披瀝す。

現實的にして而も夢幻的なる人種の代表者なる諸子は我亞國に於て業務勵精の間にその忍耐と才智を揮ふべき豊かふる進路を有せり。

そのロマンティックにして傳奇的なる精神、加ふるに近代的世界の偉力を兼ね備へたる二重の性格こそ日本をして最もよく吾人の念頭に想起せしむるもの、是れ乃ち白河樂翁公の武士道精神を傳へたる次の言葉に盡くさる。

可寝ぐるしき夜の静寂、ひそかに汝が枕辺に通ふ花の芳香、鐘の遠音、冬の夜に鳴く虫の音は、むゆに汗くべきものから愛でふつかしむべきものにこそ

オラシオ・オイアナル

外相訪問記

この二三日来、急に寒さを増してのつきり冬らしくなつたので、ローロから引き出したナフターナだらけのオーバーを一着に及びフロリダ街指して飛び出したのは十六日の夜も時に混み合ふ七時半頃。

四〇番の目的の家に亞国外相として一世に時めくオイナル博士を訪ふべく刺を通じた記者は早速ホールに通された。外相が退席するのは大概八時前後なのであるが、今夜はイリゴエン大統領とフラスル街の私宅に訪問したので少し遅くなるから、暫く待てと取次が云ふ。

男振りの博士は微笑を浮かべながら、両手を差し出して「コンベンフ...」とはつきりした日本語で口を切る。本語で口を切る。本語で口を切る。本語で口を切る。

「...」と依頼すると博士は「ゴモ...」と気軽に引き受けて、記者に在亞印人の現状を尋ねた。快談敷刻やつと肩の重荷を下した記者が政治季節とて政客の往末多く、殊に多忙を極めて居られる博士に他日を約して同邸を辞したのは十一時頃だった。

25 DE MAYO
1810 - 1929
Japanese Silk Supply
S. OKABE
CALLE TACUARI 427
U. T. (37) RIVADAVIA 5481
Bs. Aires

25 DE MAYO
1810 - 1929
G. Sato
FOTOGRAFIA
SANTIAGO DEL ESTERO
163
U. T. (38) MAYO 1166

覺迷夢言

南極星

「マツ！革命だッ！」
「えッ、何処だい、其れは？」
「何んでも南の方だ、ブエノス
ヤア、アラサ、マヨで充分ボク
を、あつたらしいヨ、で総督が
辭職したぞうだ。」
「へー、其れが大変な事になつ
たホア。」
「マツ！革命だッ！」

が起つたんだらう。
一八〇年と云ふと丁度ヨーロッパ
では例のナポレオンが初回の
帝位から引降り下されて、エル
バへ送られたとか、ソッソリ又た
飛出したとか云つた時だ。其の
々のお国許では「黒船が見へ出
したぞう、マヨ御油断、マヨ
るふ」ナ、あゝ、まじ、連中が
品川辺へお台場を造つてた頃
だ。
本家本元のスペインだつて、当時
の渾沌たる欧州政界の渦巻
に打込まれて仲々殖民地の世
話なんかを配つて居れる時
でもなかつたから、自然殖民地
の連中だつて所謂鬼の居る
間の洗濯と云つた風で可成り
コンビリヤつてた筈だ。
突に変だわ。
運轉が手近の重臣をヒ
ネリ廻すと、成程出た出た例
の七人組とか云ふのが出て来た。
美事な銅版画が何かで、或者
は腕を組んで沈黙黙考、古の
ソクラテスを氣取り、或者は腕
を廣げてデモステネスに擬ふ
と云つたんだ。
何れも年少鋭気鋭の面々、活社
会のインキ壺へは、一二度もペ
ンを突込んだかと思はれる當時の
所謂新人連中である。
其頃漸く世間に頭を持ち上

り出して来た自由民権の新
思想は可成り連中の頭を支配
してたものらしい。
そこへもつて行つて時と所と構は
が何処にでも蔓延る例の煽
動屋連が組合つたから、たま
らな、革命はスル／＼と出
末上つて仕舞つた。
が流石に新人連の行った事だ
けに上品に仕上げた。
カビルド辺では可成り猛烈な
口合戦もあつたらしいが流血
の惨事といふのは極めて少
かつた。
さう型だけの革命は出来たが
いふ治国の実行となると、仲々
議論百出、其処が新人連の
事だから、サツパリ増が明かん
マツトの事で引張り出された
のが有名なサンマルティンだ。
此人は余り大した思想家で
なかつたらしいが、馬鹿正直
に仕事をやる人だつたと見へて、
遂々雪のアンデスを越へて智
利からペルー迄も出掛けたが
功成り業遂げずブエノスへ帰
つた頃には世間がすつかり衰
つて、てんでものにされず無念
の涙をのんでフランスへ渡り、
独り淋しく彼地で亡じた。
蓋し此辺が新人連の運動の
落着き場所だつたらう。
尤も連中の中にはベルグラノ

の様、自ら重旗を築出し、
大筆を率いて、トクマン迄も出
かけて王軍を破つた人もある
が、彼は戰運に七分三分の強味
があつた。
何んと云つても戦は自分の慣れた
土地でやるに限るからね。
由未慮征軍が云ふのに勝つ
た例は極めて少い。
モスコに於けるナポレオンの失
敗、対島洋に於けるロゼストウ
キンスキー、何れも良い例だ。
遠出をして勝つたのは古い昔の
ハンニバルのアルヌス越えがト
ラファルガールのネルソン位のも
んだらう。
實際トラファルガールはひどかつ
た。
何にしろ西佛艦隊は自分の門
先でメテ／＼にやられたんだ
からネ。
所で其後の新人連は何うかとい
ふと、議論を吐くが手足が出
ない。人間の活社会はさう口先
だけでは甘く行かん。
ブエノス政府の威信は段々と国内
に振はるゝつて来た。おまけに
ローサスおんて野暮男が出ま
たので益々、駄目。
摺つたり様んだりしてゐる間に外
国からは移住新人連がドン／＼
割込んで来る。
(六頁三校目へつづく)

祝亞國獨立祭

岡部社

紅白俱樂部

アウローラ

ダンス俱樂部

雲烟過眼録

美都三

五月廿五日。
われらが第二の母国亞不熱丁
が独立記念の日なり。
VIVA!

五月廿五日。
亞不熱丁時報、呱々の声を
挙げてより第五回の誕生日
に當る。
再び叫ばん。
VIVA!

而して、殆んど期を同じうせる
この秋、在亞日本人会難問題
の別頭たりし、新役員會、愈々
成立せりと聞く。
こゝに於て、三度叫ばざるを得
ず。
VIVA!

ラ、フラタ河より吹き来る秋風
いよく寒さを加ふると共に、暮
蟲は聲を編む。
美都三、亦、亞国独立祭を概と
し、新役員會成立と共に冬籠
りの穴を掘らんことをす。

萬念を期して成立せし新役員
會、御等を待つこと久し。
而して、又御等に情む所多
きを思へ。
御等に情む所多ければこそ、美
都三浮世の雜事を暫く雲烟過
眼視じて冬籠りの穴を掘らんこ
とするなり。

多年日金の懸案たりし會館建
築漸く成りし此の際。
今や御等は何等雜事に煩ら
はざる、ことかく日金本採の目
的に向つて邁進し得る立場に
あり。
宜しく同役員が職を再び再
まからんことを――

而して、脚入映畫會収益金延
分かれたに就き、吾人々期待を
裏切らざるやう――
又新會館、貸付けに由る収益も
あることながら、同會館が在亞
三千の同胞の血と汗によりて築
かれたることを記憶せられよ。
懐中寒いくして知る天下の秋、
依然として天は高けれど海は肥えず。

此の秋、この際。
乞ふ、幸に自重せられよ。
而して、美都三が冬籠りの夢
を再び愕かすこと勿れ。

(實述夢言―前夜四段目より) 續
牛は増へるし馬は肥えるといつた様
が、口よりも腕腕よりも金とい
ふ世の中にあつてしまつた。そして今
日それが蕩々として進んで行く勢
である。
當時の新人達の其後はどうなつた
んだらう。サッパリ解らなない。
其の人は、サッパリ解らなない。
一人位は、孫だとか、姪だとかいふが、
在りやうなものだ。自分は、余り
外人の間へ入つて、日亞親善をやら
ん爲か、一向其様ふのには、ぶつ
らなない。
去る者は日々に疎しが、
所が何日経つても疎くならんのが
ある。即ち金の成る木は万年続
くといふ奴だ。

アンチローナを筆頭に居るわ居
るわ、白く何、白く何と、
亞国のグラマンズは、五月廿五
日、です、か、わつて、な、横として、並
んでる。
何れも其首は、腕で押された連中
らしい。
中にも英國風の名前の甚だ多
いのが目立つ。
其で思ひ出すのは、革命當時、二
年前に押寄せた英國の遠征隊
だ。お多分に洩れず、大の敗北
をしたが、流石はジョンブル、轉ん
でもた、は、起さん。
敗軍の將士を語らず、語つたのは
金の事ばかり。
ウスターローでウエリントンが

率いた名譽あるウルスターの、
十一聯隊とか云ふのだつた。その
が、所變れば、人々の敗軍の英
兵諸君は巧みに、ポルトギーヤス
コンキスタールして、割り込んだのが
亞国のグラマンズ、時代の變遷
は、目まぐるしい、廻轉をして、敗軍
の後高は、今や大公社、大商店の
主人、支配人となつてしまつた。
其昔、ビンゴ、マンカロンに、鞭打
つて、七人組を助けたクリスチヨ連
も、今は、すつかり、影をひそめて、右
も左も、發動機、音ばかり、市中
では、ポイナ等の、レセロ、カ、マ、ス
で、景氣よく、走り廻る。
實際世の中も、か、う、變ると、面白
が、無く、ふる、な、い。
由來、五月革命の精神と云ふのは
吾等に、自治を、喚べ、と云ふの
であつた。その、所が、此は、又何
も、した、事、だ、目、今、亞国は、右
も左も、インテルベンシヤンの、大流行だ。
嗚、か、し、地下の、七人組も、目、が、つ、ぶ
れん、事、だ、ら、う。
金の世の中では、自治も、祖父と
い、う、米、鐘、頭、が、癪、の、種、と、な、つ、て、は
舞、ふ。
新人の、新靴も、金が、無ければ、免角
窮、屈、ふ、も、だ。
此様に、秀へると、光榮ある、吾、七、人
組、諸君の、運動も、結局、若氣の、氣
紛、れ、位、に、な、つ、て、仕、舞、ふ、や、實、は
左様、だ、つ、た、か、も、知、れ、ん、免、角、尸、史
ぶ、ん、て、も、の、後、に、な、つ、て、い、か、減

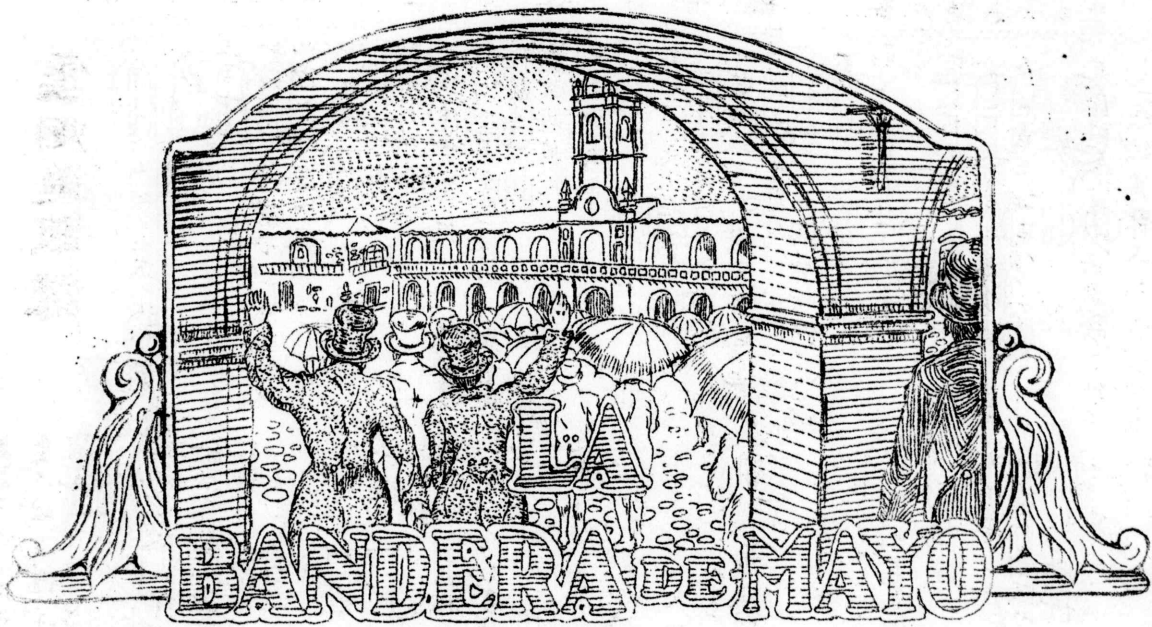
の、事、を、書、く、も、ん、だ、か、ら、ね、
若し、眞に、そう、だ、つ、たら、コ、ペ、ン、テ、シ
ン、コ、で、迷、ふ、だ、つ、た、ね。
エ、ー、ト、孔、子、様、が、傳、道、を、し、つ、た、事、を
去、つ、た、つ、け、な、コ、三、十、三、に、して、迷、は
な、か、四、十、に、家、を、成、す、ナ、ン、テ、
マ、ア、ク、吾、が、亞、國、お、ん、か、も、迷、は、す、
喰、は、す、は、後、退、し、て、諸、外、國
の、不、義、理、位、は、早、く、成、して、仕、舞、ふ
ん、だ、ね。
そ、し、た、ら、其、の、自、治、は、期、せ、ず、し、て
や、つ、て、く、る、奴、だ。
カ、ン、チ、ロ、お、ん、か、い、國、際、聯、盟、ふ、ど
で、コ、ン、ロ、ー、主、義、は、丁、史、上、の、事、業、
ふ、ん、て、空、城、張、り、し、て、も、未、だ、欺、目、く、
オ、マ、何、だ、か、で、欺、つ、て、る、ぜ、と、聞、け、
よ、鉄、鎖、の、断、た、れ、し、音、と、か、
甘、い、事、を、言、ふ、な、い。
マ、ア、ク、鉄、鎖、は、免、角、時、計、の、金
鐘、で、も、切、ら、れ、な、い、様、に、御、用、心、
御、用、心、
お、れ、一、つ、イル、ミ、ネ、シ、ヨ、ン、で、も、見
に、出、か、け、る、と、し、や、う、が、
(元)

祝獨立祭

在東京

西野七子





I
 Al cielo amebataron nuestros gigantes padres
 el blanco y el celeste de nuestro pabellón:
 por eso en las regiones de la victoria ondea
 ese hijo de los cielos que no degeneró.

II
 Cual águila en acecho se alzaba sobre el mundo
 para saber qué pueblos necesitaban de él:
 y llanos y montañas atravesando, y ríos,
 la libertad clavaba donde clavaba el pie.

III
 Del cóndor de los Andes las alas no pudieron
 seguir en sus victorias al pabellón azul,
 ni la pupila impávida del águila un momento
 pudo mirar de frente su inextinguible luz.

IV
 ¡Alcomos sus colores con vanidad, hermanos!
 De nuestra gran familia el apellido es el:
 dos bandos fratricidas le lloran en su lanzas:
 mañana, en torno suyo, se abrazarán también.

五月の旗

フアン・マリア・グティエレス作

獲物をねらふ鷲のごと、
 世界の上に跳り立ち、
 吾を求むる邦々何處と、
 野を越え山越え川を越え、
 かれ足跡の印する處、
 自由をかく釘づけぬ。

白と青とのわか旗の色、
 宜なる哉、蒼穹の子
 破れ衰えたるさまもふく、
 四方の捷軍にひらめきぬ。

偉大なるわれらが祖先、
 蒼穹よりぞ奪ひ取る

いと誇らかに捧げばや、
 わか旗印を……兄弟よ、
 そは、わか一族の姓なれば、
 今日闘ざらん兄弟が
 槍の穂先に持てばとて、
 明日は抱擁かんそが周囲に。

不滅の光を一瞬だに
 正視すべくもあらざりき。

ロスアンデスの秃鷲が
 翼も捷利の青條旗、
 跡追ひ得べくもあらざりき、
 荒鷲のおそれ知らざる瞳さへ、

JUAN MARÍA GUTIÉRRES

CAFE "TOKIO"
DE
TOGO TSURUSAKI
BAHIA BLANCA, F.C.P.

祝
独
立
祭

バイアブランカ市
カフェ、東京
鶴崎藤吾

CAFE TOKIO
DE HIRAY Hnos.
SANTA FE

祝
独
立
祭

サンタフェ市カニ東京(創立一九二四年)
本店
第一支店
第二支店
サンマルティン街
リバダビア街
サンマルティン街
平井庄
全全
治勝庄
二二三四
三〇〇〇
二四四〇
七次六

CAFE JAPONES

DE

M. KAMACHI

祝
亞
國
獨
立
祭

ロサリオ市
蒲地正登

CASA MATRIZ
CORDOBA 1060
SUCRUSAL

SAN MARTIN 921

CASA "KAMACHI"

OBJETOS DE ARTE DEL JAPON PARA ADORNOS
REGALOS

SARMIENTO 1030

RO SARIO

TINTORERIA
LA JAPONESA
DE
JULIO H. SAITO

祝
独
立
紀
念
祭

染物店
「ハホネーサ」

齊藤彦次

CONSTITUCION 3482

EL YAMATO
TINTORERIA LAVADO Y PLANCHADO
DE
M.W. SENO

祝
亞
國
獨
立
祭

「やまと」染物洗濯店

瀬尾和太郎

LAS HERAS 1987 U.T. 44
JUNCAL 5091

“EL TOKIO”

GRAN TINTORERIA Y TALLER DE LAVADO Y PLANCHADO

DE ADOLFO K. OTSUBO

祝
独
立
紀
念
祭

五月廿五日

大坪喜義

RIVADAVIA 5202

U.T. CABALLITO 4738

Bº AIRES

CAFE NIPONES

DE
T. TSURU

ASUL

F.C.S.

鶴

辰次

アスール市
カフェ・ニッポネス

祝
独
立
紀
念
祭

25 DE MAYO

1810 - 1929

HOTEL RESTAURANT
JAPONES

DE

S. YAMAGUCHI
Y CIA

CALLE RIVADAVIA 484
U.T. 5066

CORDOBA

F. C. C. A.

CAFE TOKIO

CONCORDIA,

E. RIOS

堀井貝

田上原

啓儀

勝行八

コンコルディア市
カフェ・東京

祝
亞
國
獨
立
祭

CAFE NIPONES

HOTEL, BAR Y BILLARES

DE MINWA HIGA

CORRIENTES Y ITUZAINGO, SALTA,

F. C. C. N. A.

サルタ市
カフェ・ニッポネス

比嘉民和

祝
独
立
紀
念
祭

ALMACEN
CASA TORU
 CORRIENTES

祝
 亞
 國
 獨
 立
 祭

コリエンテス市
 アルマセン・カサ「トリ」

津
 曲
 恒
 太
 郎

全
 曲
 恒
 太
 郎

CAFE JAPON
 DE J. TAKEUCHI
 CASA MATRIZ
 Calle SAN MARTIN 658
 SUCURSA
 CORTADO RMA esq. SAN JUAN
 ROSARIO

祝
 獨
 立
 祭

ロサリオ市
 カフエ・ハボン

竹
 内
 重
 吉

CAFE TOKIO

BELL VILLE, Prov. DE CORDOVA

祝
 獨
 立
 紀
 念
 祭

ベル・ヴィレッジ市
 カフエ・東京

鶴
 山
 中
 口
 村
 長
 末
 米
 馬
 吉
 助

CAFE TOKIO

25 DE MAYO 14-22
 TUCUMAN F.C.C.A.

祝
 獨
 立
 紀
 念
 祭

トゥクマン市
 カフエ・東京

宮
 小
 吉
 本
 國
 崎
 嶺
 興
 肇
 雄
 吉

25 DE MAYO

1810 ~~~~~ 1929

SIERRA DE CORDOBA

HOTEL "PLAZA"

DE

JUAN KAWABATA

(QUINTA JAPONESA)

UNQUILLO

F.C.C.C.

コルドバ州
ウンキリーヨ

川端嵩

CAFE TOKIO

POSADAS (MISIONES)

祝独立記念祭

ホサーダ市
カフェ「東京」

山口

全全全

喜代

實之

郎助一志

CAFE JAPONES

CASA MATRIZ

CHACABUCO, F.C.P.

SUCURSAL

CHIVILCOY F.C.O.

祝独立記念祭

カフェ「ハポネス」

本店
支店
チヤカブコ市
チビルコイ市

吉峰 佐之助
遊佐 友八
藤田

CAFE TOKIO

DE

EIJI NAKAMA

TANDIL

F.C.S.

祝独立記念祭

タンゴイル市
カフェ「東京」

中間榮二

25 DE MAYO
1810 * * 1929
THE JAPAN BAR

祝独立祭
チヤハンバー
新垣徳衛
大城永蒲

25 DE MAYO 427-37 u.T. Retiro 0675

KIOTO
CAFE Y BILLAR
CORRIENTES 2702 - U.T. 4012 CUYO

祝亞國獨立祭
カフエ「京都」
窪 窪
窪 禎
窪 藏 秀
コリンチ文街ニテ
電話クローヨ四〇一ニ

1810 25 DE MAYA 1929

COUQUIN

F.C.C.N.A.

祝独立紀念祭
コルドバ州
コスキン市
伏 伏 伏
見 見 見
義 八 秀
次 郎 雄 郎 直 江 郎
大前山青 伏 伏 伏
西川崎木 見 見 見
佐 小 義 八 秀
一 雪 忠 一 義 八 秀
郎 江 直 郎 雄 郎 次

祝 独 立 祭

御料理
御旅館

昭和館

杉本春松

コリエンテス街二五二九
電・クローヨ・八七六三

祝 独 立 祭

日本御料理仕出し會席

末廣亭

かまぼこ調製配達致します

松尾好一

パトリシオス街一九
電・エンオルデン五七三五

祝 独 立 祭

たるき亭

松田清市

市内ピエドラス街八七三番
電話・ゾエルデン一五二七

祝 独 立 祭

菊水

北島覺逸

市内メヒコ街一四二〇—一四二四

TINTORERIA
"IRIS"

祝 独 立 祭

市内サンチャゴ・エステロ一六三
電話マリーヨ一六六

坂本栄次郎
佐藤貞次

染色店「イリス」

STGO. DEL ESTERO
163
U.T. MAYO
1166

CAFE SATUMA

DE KUROKAWA H¹⁰⁰¹
SERVICIO ESMERADO

CASA PRINCIPAL: RECONQUISTA 424
SUCURSAL: Av. L.N. ALEM 316-22
U.T. 31 RETIRO 2896 U.T. 31 RETIRO 1571

祝 独 立 紀 念 祭

カフェ「サトマ」

黒川禎助
全義盛

ALMACEN Y BAZAR
DE

T. NAKAGAWA

SUAREZ 1300
U.T. BARRACAS 0869

祝 独 立 祭

アルマセン兼バザール

中川商店

市内スワレス街一三〇〇
電話〇八六九(バラカス)

25 DE MAYO

1810 - - 1929

"AU PETIT DUC"

SASTRERIA DE MEDIDA FINA
(ATENDIDA POR SUS PROPIOS DUEÑOS)

NUMEROSOS CLIENTES JAPONESES SE VISTEN EN
NUESTRA CASA

CAMARA Y CALVO

高等洋服店

ウ・プ・テイ・デウク

サルミエント街一〇七三
電話リハバニア五五〇九

SARMIENTO 1073 U.T. 5509 RIVADAVIA

DRS. GALANTE Y HADIS

痲病 梅毒 尿道
皮膚生殖器障害専門
◎診察時間
午後二時より
同十時迄

LAVALLE 900
Esc.
SUIPACHA
2º Piso -B

U.T.
LIBERTAD
1805

DR. J. P. MUNZINGER

MEDICO CIRUJANO

醫師 ムンシンガー
獨逸病院附
並ニ日會顧問

178-LIMA-188
BAIRES

U.T.
RIVADAVIA
1154

1810 - 25 DE MAYO - 1929

"NEW YORK"

市内アエリダマヨ街四七三
電話 マーヨ 三三九五

◎發賣所

拾月拂ひで販賣
致します。

帽子、フランチャ機

Pianos
Breyer

店器樂ルエーレフ
四-四街ダーリロフ

TIENDA SAN JUAN
GRANDES ALMACENES

サンファン
呉服店

PIEDRAS-VICTORIA - ALSINA

RESTAURANT, CAFÉ Y LECHERIA

"JAPONES"

CANNING 777

U.T. 65 CHCRITA 8084

市内カニックス街七七七
電話四〇八四(チアリ)

小 河 貞 藏
梶 山 島 園

同胞諸君の
御見顧員を
願ひます

御料理

安値にして
營養と美味を
兼ねた

ENRIQUE MOREIRA

DES PACHANTE DE ADUANA
IMPORTACION Y EXPORTACION

通関手続人
エンリケモレイラ

RECONQUISTA
144
Esc. 21 y 22

U.T.
AVENIDA
3883

OBJETOS DE ARTE DEL JAPON, APROPIADOS PARA
REGALOS

CASA "NIKKO"

Suipacha 1010 133 Aires

志真商店
スイパキヤ街一〇一〇

CAFE TOKIO

DE

HOSHIDA HNOS.

TUCUMAN
1099

兄 星
弟 田

U.T.
38 MAYO
0192

祝 亞 國 獨 立 紀 念 祭

ALMACEN
"NISHISAKA"

日用食糧品
味噌醬油漬物製造販賣
西坂商店
市內アウストリア街二〇五
電話 バラカス 二九一五

TINTORERIA
TOKIO
EN BELGRANO
MENDOZA 2450
U.T. 2819 Belgrano

岩平宮
尾田本
朝綱
平吉好

TINTORERIA
"EL NIPON"

中西喜章
坪井二郎

1134 - JUNIN - 1134

DESPENSA
"PARQUE LEZAMA"

アルマセン
バルケレサール
福田商店

CALLE
PATRICIOS
11

U.T.
B.Orden
0607

現代社會

因襲的羞耻心

粹庵

最近私は河原萬吉氏の著作「猥談奇考」と云ふ本を手に入れて讀んだ。此の種の著作には珍れに見る研究的のものであつて、日本人の性慾に關する傳説を一々古文書より引用した類は興味津々たるものである。唯だ誠に遺憾に感ずる事は官憲の検閲が余りに嚴重に過ぎたため、到る所に〇〇〇の伏せ字があつて甚だ意味の了解に苦しみ、其の多い事である。

斯かる研究書は決して浮本と混合すべきものではなくして、全文を公表した所で決して社會の所謂「善良なる風習」を壞乱すべきものではない。研究的の著書もしくは文藝的著作に官憲が際々しく干渉すると云ふことは社會を毒する事あるとも決して益する事は無いものである。教年前ロケットの作「接吻」が日本で公開禁止になつた時、佛國の新聞は「筆をそぐ人日本は永劫の藝術的傑作を撰

種と混同する一種の野蠻人である」と酷評をするものゝあつた點を私は記憶して居る。フエリシアンシヤの現はる、或は東洋、西洋何れの宗教も生殖器を崇拜し、生殖性交を稱護したものであると云つてゐる。實際基督教は唯精神の向上にのみ努力して生殖器を恰も恥そのものゝ如く隠すことを教へた。

これに對して性對する道徳觀念が根本的に變つて来た。政州人に羞耻心と云ふものが生れたものである。此の基督教の羞耻觀念が英米の新教の宣教師に依つて日本に傳へられ、今日では取り返しのつかない偽善國民になり終つたのである。教年前巴里の「キエビドン」云ふ雑誌が風俗壞乱の批難を受け発売を禁止せられた時、左の如き質問を發して讀者並びに名士の回答を求めた事がある。

「性交と云ふものは恥すべき行為なりや、もしくはは自然的の行為なりや？」
 「社會が性交を行ふ事もしくは語る事を禁ずるに如何か？」

「答が大部分を占めて居る。併しハンリネール氏は寒かりの爲めに多少季節に應じて衣服を纏ひ度いと云つて居るのは頗る振るつて居る。リユース・ジマン、ネール夫人は美を重んずるために青春時代を過へたなら調和を欠ぐ醜しい部分に隠すべきだと言つて居るのも一理あることである。併し乍ら誰一人として身体に恥すべき、もしくはは不道徳的の部分が存在すると云つて居るものがない。

次にオウの質問に對し極端なる不自然にして偽善的ふる醜恥心と戰ひ、法律風習をして性交問題の自由開放に導く。要するに云ふ回答が大部分を占めてゐるのである。「サロン・パラファ」ミリアスの缺を可からざる此の亞國、つかり婦人に「レヤレ」を云つて恥をかく此の國、僧侶に依つて偽善「ゴマ」し教育を施こし、あるこの思想的に憂れた亞國では因襲的の極端ふる醜恥心と戰ふの要あることを特に感ずるものである。

オウの質問に對し例の「Gauguin」で問題を起したヴィクトール・マルグリットは「風俗壞乱の件で文學者を罰すると云ふ事は裁判官自ら罪を犯すものである。何故ならば文學者しくは、主眼では無くして趣味が主眼であり、決して法律の秤にかくべき性質のものではない」と云つてゐる。

上記のヴィクトール・マルグリットはその著作「Gauguin」のために法庭では罰せられかけたけれど、宗教家や一部の政治家の攻撃に遭ひ、レガンドールの筆を執奪せられた。併し其後世論も変り、また彼の文學的價値を益々認めらるに至り、教ヶ月前にまた上記の點章を返して貰つた。彼が最近の作「Bon Corps est à toi」(汝の體は汝のもの)は彼の最も會心の作と思はる、ものである。彼の思想、彼の新道徳觀念を鮮かに書き出してゐる。またこの作の中には上流社會の情落を暴露した極分大膽な描寫も加へられて居る。併し下ら此の度は何年、攻撃もつけずに三百版以上も賣れて居る所を見ると、社會は遂々下ら傳藝的醜恥心と戰ひ、自然律に向つて進化した、あるものと見ることが出来る。

祝獨立祭 酒井和市 七草木萬之丞

人生のかけら

くればい法師

下宿屋の厄介者として、いつも女將から打たれてゐる俺の待遇が今朝は馬鹿に好い。

なせつて朝のカッソーに砂糖が二人前にパンが一先多いもの。

「魚心あれば水心とカ……女將さん俺の月給目だって事をちやんと知つてゐるらしい。

その昔、エデンの園で生れた蛇は、衆教と云ふ皮を脱して、今では黄金と云ふ皮をかぶつてゐる。

だから今の蛇、人間は黄金の支配外へ出る事は出来ぬ。

「あ、金の世や金の世や……」

これが廿世紀のシンボルだ。

これが廿世紀のすべてだ。

「金ふくて何の己が獲かぬ」

俺は思はず苦笑した。

それにしても下宿の女將、いけつうづうしい女だと思つて見たところ、此が廿世紀だと思へば、さうも腹も立たない。

まあ何んでもいい、俺は店へ行かふければふらふい。

コルネヨンの下からスポンを引っぱり出した俺は一寸フラツシをかける、それから鏡の前で頭髪をかきつける。

例によつて別のもつた、バジートの安下宿から地下鉄道によつて、セントルへはこんなでもらう。

俺はこの地下鉄道へのると、いつも運轉手や車掌がやけにかつかしくなる。羨しくなる。

なせから……一日中店の地下室で薬と箱の間で働いてゐる俺に比べて、女の身のかくだけでも幸福な男だ……

幸福な男だ……

店へ這入りこんだ最後、日曜日の朝の出勤時、蓋飯時間以外にはお天道様を拜のむいと末てゐるんだもの……窓の側で往來を通る女の足でも眺めて、喉をうる他の店員を見ると、はうそしてやりたくなる。

二年間も地下室を勤めてゐるのに、神は俺を未だ穴倉からひっぱり上げてはくれぬらしい。

い。

そんな事を考へ下ら地下鉄道でセントルまでははれた俺は、店まで飛んだと見へる程急いだ。

さうその日の夕方、俺はヘレンテから一月分の汗代として、金百五十ペソ、別に夜おべの手当として四十ペソ、合計百九十ペソを戴いて意気揚々と店を出た。

店を出てくる俺を誰か見たら、さうと俺をヘレンテ位に思つた、さういふ程、いふつたであらう、自称色男を以て任じてゐる俺は不思議に月給日の夜はどこへ

でも根ツキにわつた。

然し二度月給袋をふぶめる時、廿世紀のシンボルを眺めると、月給袋の奴を地べたへ叩きつけてやりたい様ふ気が起る。

そして月給袋の上に、地下室係と大きく書き出されてゐるの、すつかり俺の自尊心を傷けるのだつた。

××××××××××

俺の下宿の隣室に二ヶ月程前からまだ廿歳の若い母親と赤ん坊が、ひっこして来た。

その女の名をアナと云つた。

もうこの下宿へ来てから二ヶ月にもなるが、彼女がベスカール以外のヴェスナードを身につけた姿を俺は見事な事かふかつた。

アナの黒い眼と、黒い髪と、そして色の白いすんなりとした姿、にっこり笑ふ可愛い、笑ひの出来る顔が、この俺の妹を思はせて、彼女がひっこして来た時からなせか俺の心を強くふるわした。

アナの動作には、どこか田舎臭い匂いがある、そのおつとりした田舎臭い匂いが、俺の心をひき寄せた。

おつとも、アナは何か過去に秘密でも持つて居るかの如く、いつもおどくしてゐた。

ところで、俺はこの女の亭主と云ふ男を見たことがない。さて毎朝洗面所で顔と見合せて、

「ボンジョー」を盗してゐる中に、悪心な赤ん坊は、すつかり俺に近づいて来た。

「将を得んと欲すれば先づその馬を射」

不気持は俺には毛頭無かつたのだが……

そんなふうで、俺は時々赤ん坊に玩具だのチョコラレーを買つてやつた。

そしてそのたびに、若い母親の笑ひを眺めて俺も悦にいつた。

日か経つにつれて、アナは俺がたいして悪くても、赤ん坊を思つたらしい、赤ん坊を二人で、淋しいから、ちよいちよいお話に来て下さいと云つた。

それは初秋の或夕べだつた。

フルイテアでめつた俺は、それをふわふわと見つけた俺は、それを買つて下宿へ急いだ。

なんだか独りで喰べるのは惜しい様ふ気がしたので、俺はアナの室を訪れて、仲よく二人は喰べた。

「ア、アナ、君は何が煩悶してゐる様だか……」俺はハハホホとだけ、さういふ見へても人の悲しみを分つ位の事は知つてゐるんだ……俺のカで出来る事なら何んでもしてあげよう。

俺は一寸したきつかけに、さう云つてアナの顔を横目で見やつた。

はじめの中は、何んでもない、総てを否定してゐたアナも、俺の親切にはだされ、彼女が涙が、らに語つた、彼女の過去を……

<p>TINTORERIA</p> <p>“La Japonesa”</p> <p>de</p> <p>M. Miyata</p> <p>CALLE PAMPA 2420</p> <p>BUENOS AIRES</p>	<p>祝 独立 祭</p> <p>増山豊吉</p>	<p>祝 皇國 獨立 祭</p>
---	---------------------------	------------------

そしてアナの語った話によれば、アナは世にも憐れみ孤兒だつた。彼女の父は彼女を連れて伊太利から亞不來丁へ来て間もなく歸らぬ人とあつてしまつた。

アナは其の夜公園の木蔭で悲しい一夜を明かした。初秋の夜明の星の上るまで公園のベンチで眠つてゐるのはこの口をメキとフリエツタ？

俺はどうして、のかわからぬので、ボクがレシータと云ふ肩のあたりを叩いてやつた。赤ん坊を生んで、まだいくらも日数はた、おれがアナは、どう何時迄も遊んでいられたら、あつた。所持金もだん／＼となくなつてゆく。

た。田舎出のアナにも、女の意地と云ふものがあつたのだ。俺はふせか、この女が可哀想をたまになくなり、ヒステリックになつて、過激に、口を思ひ出して泣いてゐるアナに同情して、すつかりむら／＼泣き出してしまつた。

俺は泣いてゐるのだ。この女子がこの下宿へ来てから、それとこの女の憐れみ過去のすべと打聞けられてから、俺の夜遊びはすつかり止んだ。そしてマイボあたりの尻の光で生ゝある女に、ひびきでもさすられると、好い気持ちに、おれもさすられると、いたカクテル一杯代は、この人生の行路に歩みつかれた女子への贈物と變つてゐた。

目給袋をふところ、俺は又方振りで五月街の夜を歩いて見た。

ネズミの如く、おどろいて光を注いで、
その光の下にうごめいてゐる。憐
れか人の群……
けはくした女が馬鹿に目につく。
胸と手を美的表現としておた
昔の女の姿は、髪と足とによつて
今はその美を表現してゐる。
尻の光を見てゐる……やっほ
り悪い気はしない。
そしてや、もすれば、俺を昔の
トランテに引きずり込んで行か
うとしてゐる。
時々すれちがう女が、おかし眼
を凝して行く……悪くはない
あふふの一夜天国へ遊んだら
昔の人間はうまい事を去つた。
「男子から見れば女人は地獄の使
也」と然して女から見れば男子
は性慾の奴隷也……
……だが、下宿の一室には、あ
の可哀想な親子が……
ふんて考へると俺の豆はすくむ。
で先づ一寸懐を觸つて見る。
あまく俺は安心する。
フゲテリアへつかく、と這入つて行
つた俺は、赤ん坊のために玩具を
買った。

集を二匹と、ポーションを一瓶買った
俺はアベニダデマヨへ出るべく
道を急いだ。
とバルトロメイトリ街と、スイパチヤ
街の角に人だかりがして、わんわん
騒いでゐるではないか。
「何んだ……ア……」
人波をかき分けて俺がそこに見た
ものは何んだらう。
秋も終らんとするこの寒さに薄
物一枚でふるへながら、子供を
へて打たはれてゐる。憐れな奴
残者が、うつくまつてゐるではない
か。
俺は見るべからざるものを見た様
が、気がした。
「ア……赤ん坊……」
俺はあふふた地下鉄道へ乗止
んだ。
その夜はアナと、赤ん坊と俺と三人
は一羽のホーシヨと一尾の魚とに
よつて心からなる家庭的な食事
をすませた。
海外に放浪して早や六年、俺は
これ程永い食事を且つてゐた
事がない。
日頃青白いうぶじが二杯のウー
ニにはんのりとして、アナをやけに
美しく見せる。
赤ん坊は俺が買つてやつた人形を
かへて、にこにこしてゐる。
時々、ハハ、ママと泣かせては無心に
よろこんでゐる。
この何も知らない無邪気な幼子
を見てゐた二人は、思はず顔を
見合せて微笑した。

そして若い母親が俺の胸の中で
打震へるから泣いてゐたのは、
それから暫くたつてからである。
××××××××××××××××××
その翌日。
二年間の俺の努力は報いられて、
とうとう地下室から、憧憬の窓側
の販賣係に俺は昇進した。
その上、今月から月給も十月上げ
てやると、今月からは出た。
俺は天へも登る心地して、午後の
六時にふるふるまつて下宿
に帰つた。
この大さな悦びが、俺のすべてを
抱擁した時、運命の神の悪戯は
又もアナの上、その翼を、おほい
いろけつ、あつた。
俺が下宿の二階をかけた上つた時
「何んだいこの田舎女の……父さん
子ふんかひり出して……一寸やまし
くしてやりやつけ上つて……さ、内ち
や、無料で人に部屋ふんかひ
せふんだよ、さあ、お金や、お
かひんから出ていっておくれ……」
「女将さん、お頼みです、もうしばらく待
つて下さい、今……」
「駄目だよ、こは文ふしの住む所
じゃありませんよ」
女将の声だ、そして相手はアナだ。
いきなりアナの空へ飛んだ俺の
血は逆上した。
「ふんだ女将さん、可憐い女だと思
つて余んまりいぢめるが、金はい
くらほしんだ、さあ、お金や、お
かひんからいくらだかや」

「ふん、なにね横合から飛出しや
がって、このひょうろく玉、お前は
この女の何にあたるんだい、文句が
あるんからお前も出ておくれ、お
女将さん、この方は……」
「さういふ、お前さんは黙つてい
畜生!!!俺は握つてゐた札を女
将の顔にたたきつけた。
いくら女将だとは云へ、黄金の世
とは云へ……」
「アナ、さあ出て行かう、どこかへ行
かう、さうだ、俺達を心から迎へて
くれるカネの地を求めて……」
その夜、アナと俺とを赤ん坊は
れ下ら、アナと俺とを赤ん坊は
左つてゐた。
それはアナの顔に、コルトバで
相当手びろく、やつてゐるエスタンシ
エロのアナの伯父を尋ねて……
俺は地下室の葉と箱の間から長
い間、あふふた窓側の販賣
係へ昇進した。さういふ、十田の
増給も、すべてを投げ捨て、……
「アナ、ネネは俺が抱いて、やらう、君
は少しおやすみ」
「エ……」
汽車は夜のパンパス大平原を走つ
てゐる。
そこは果てしなく廣い暗黒の
眩野である。
人生!そこに無数の魂が、さまよ
ひ、求め、苦しんで消えていった。
よるべも、眩野の中に名もな
く、それ等は埋れて、骨は砕け、
魂は打ち、時がそれを虚しくし
た。

虚無!
それは大海原の如くに人生を巨
である。
涯しもない暗黒の夜で、人間共は
あるが、まに、かうして死ぬ、滅びる、
……唯それだけ……
人生とはこんなものか!
果してこんなものでいいのだからか?
否!吾々は人生と云ふものが、こん
なものではないと言ふ事を信じた
い。
暗黒の谷底にも一道の光がある
信じた。
信じて平のると云ふ事は、少く
ともこの虚無に色をつけてくれる
思ふ。
我々は虚無に生きてゐる小さい存
在では、ふいかに、そこに小さい人間の
大きく生きる姿を見るべく努力し
やうではないか。
暗黒の中に光を見出す。
そこに人生の面白味があるのでは
ないか?
さうだ、田舎、そこには、さういふ、俺達を
心から迎へてくれるトランテが待
てゐるだらう。
そして、我々は決して失望すること
はないだらう。
(完)

祝 獨立 祭
廣 中 仁 一

“TALLER HINOMOTO”

DE LAVADO Y
PLANCHADO A GAS
Y ELECTRICIDAD

兄弟
小那霸

DE ONAHA H^{nos}

LIMA 489

洗濯店
「のむと」

祝 亞 國 獨 立 紀 念 祭

TINTORERIA
BELGRANO

花本
保

MONROE
2937

U.T.
BELG.
3981

GRAN TALLER
JAPONES DE LAVADO
Y PLANCHADO

“EL ASAHI”

洗濯店「朝日」
宮園新之助

CHARCAS
1873

U.T.
Juncal
4366

EL TOKIO

TINTORERIA Y SOMBRERIA JAPONESA
DE K. AMANO

東京染物店
天野今朝治

LAVALLE
567

U.T.
31 RETIRO
3335

TINTORERIA
“SATSUMA”

水流兄弟

JUNCAL
1841

U.T.
41 Plaza
2097

CAFE JAPON

GENERAL HORNOJ

Nº 16

Bº

Aº

TIENDA MERCERIA

"Kimono"

C. PELLEGRINI 1378

U.T. PLAZA - 1306

カナダサン生
命保險會社
勸誘員

林甚次郎

1810 - 25 DE MAYO - 1929

TINTORERIA

EDDO

RIVADAVIA 6114
U.T. FLORES 6863

SUCURRAL
GAONA 917
U.T. FLORES 6631

染色店江戸
眞王橋朝展
森市兵衛
城間基次

C. Yamada

MASAJISTA JAPONES

CALLE PATRICIOS 1254

日本式あんま
鍼灸治療致し外

山田忠重

パトリシオス街
一二五四

片山洋服店

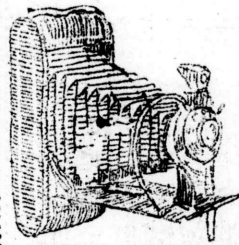
電話マ一ヨ 二七〇一

タクアリ街五八〇(二階)

PABLO BEINES

CORRIENTES 871

Articulos Generales para Fotografia



日本人諸君
へは特に大
割引致し外

"PLATA BRAUN"

MARCA

Fabricación de Articulos de metal para Bazar, Hotel y Cafe.

MUCHENNIK Y BRAUN

HERRERA 1265
U.T. Barr. 2106

金銀ニッケル
めっき工場
金銀製作品
販賣修繕

FABRICANTE DE TAFILETE Y FORROS para sombreros de paja, fieltro y panamá.

A. Fernandez Vega

BELGRANO 3201 - 5
24 de NOVIEMBRE

U.T. 62 - MITRE 8555

各種帽子の裏
地并ニラフイソ
制衣作販賣元
市内ベルグラノ街三〇二

TINTORERIA "EL TOKIO"

比嘉彌吉 HIGA Y CIA 比嘉源助
 SISTEMA ULTRA MODERNA
 R. L. FALCON 2392
 SUCURSAL VARELA 1142

祝 亞 國 獨 立 紀 念 祭

GRAN TINTORERIA
 Y TALLER DE
 LAVADO Y PLANCHADO

"EL YOKOHAMA"

洗濯店 横濱
 上久保文吉

8^{vo} MITRE
 2511

U.T.
 47 Cuzco
 7159

FABRICA DE MUEBLES
 DE BAMBU
 DE IKUJI SAEKI
 COCHABAMBA 1300

竹細工製造販賣
 佐伯亥九二

EL NORTE
 LAVADO Y PLANCHADO

洗濯店
 エルノルテ
 谷本兼市

PARAGUAY
 1317

U.T.
 Juncal
 5064

TINTORERIA
 "JAPONESA"
 DE
 E. OKAWA

染色店
 ハホネサ
 大河榮一

ALENALES
 2301

U.T.
 Juncal
 4675

コスギン行記

雲水

某日

夏々たる音をたてながら午後七時、萬燈の都、ブエノスアイレスを出た。汽車は五分又は十分おきに、電燈の照った町をいくつが後にして疾走して居た。

出発の際に取急いだ私は漸く気が静まったので靴を座席の下に押し込み、ホッと息をついて夕刊を取り出した。然し近郊への散歩旅行と違つて廿時間近くも續け走る汽車の旅となる。何となく若らつた夕刊を扱つて暗い窓から流れるやうな星の光を眺めたり、乗り合の客の顔を一つ一つとそれらに度々に眺め廻したりして、そして度々座席の上を右に左にすべり廻つた。それども相当に疲れて居た私は思つて居た珈琲の注文もせず時折りすれ違ふブエノス行の汽車に眼覚まされ下ら正夜十二時ロサリオ駅に最初の停車した。い、気が持たず居た。

此の列車はコルドバ行急行で乗客へ等の面倒はない。

窓から眺めたロサリオ・ノルテの駅は、鉄道敷設当時のまゝ、ホカホカ食弱ものである。停車五分。今度は機関車を後方につけて後戻

りた。この時、居ると見合せの事にして駅前直ちにタクシーに乗る。アルタ・コルドバに向ふ。急ぎふからし此の町に入つて気がつく事は寺院の壮麗な建物と其の数の多い事である。着前汽車の窓から目撃するのだから驚く。然し深夜の窓外は余りに暗く地上より反つて天上が眼につくので、修正工事の通りもあつて、活動都市気分も充分あるのである。この数多い寺院の高塔が工場煙突であつたらしく、勝手も思つては、然し、ラテン系の特徴にあらはれて居る。チリの住民に於ては、煤煙より、抹香の匂いと愛する。つまり産業より宗教に親しみ易い性質を持つて居る。それだ。生活苦に違はれて居る。それだ。幸福だと言はねばならぬ。橋を渡つて急坂を上る自動車から後ろ向きに於て、又、全く茶碗の底の様、四圍の、高い市街を眺めた。

アルタ・コルドバは川一流を隔て、コルドバに接觸する市街で可成りに廣い。此の町に中央コルドバ鉄道と国営鉄道の二駅がある。

私は今、後者の駅に着いたのだ。乗車して見ると此の狭軌鉄道の車輛は着初からテンペルレイに行く電車を思はせられる。然し、少くも、つかりしたもので、座席、電燈、スライム、扇風機等の設備は完全なものである。思はす。汽車はこれからいよいよ山地に入るのだ。疾走せ分にして、左はリス

アリ・メロ、右は山と言ふ詩的、自然環境を右折左曲、途中ラカレラ駅で別線コルドバセントラル線から来る度々何れの列車も通れる三本線の鉄路と合する。これからラゴサン・ロウケに着く迄の四五十分間は窓外に半身を出して通して眺め愛する程の美景である。

山も川も特に高大方では無いが、巨岩断崖、激流の間をくねり、つて、向岸の石炭山、水刀発電所、峯は灌木、橋は柳に緑藻を連山の甲を縫ひつ登り行く汽車の中では、其の眺望にたとへ、木曾川、或は神戶川の雄大さには、永年箱詰の生活に倦んで来た私にとつては、まことに愉快の上の愉快であつた。

途中河川は左折し、汽車は右折する所に短かい一つのトンネルがある。僅か一分間、通らぬのであるが、丁寧に電燈も照り、それが消へる頃に前方は、るかに夢の様に開け行く海?を眺める。

突如サン・ロウケ湖に上り達したのだ。汽車が近づくと、水面は、次々に開け、驚嘆禁じ得ない。グレイサン・ロウケの大工事を見た眼には、直ちに指輪の近山、岸をみす、所白砂あり、緑あり、風景正に黒湖に洗はれた日本の某地、此の海岸に、髣髴したるを眺めるのだ。

ブエノスアイレスに居てラプラタ河に親しみ得ない人も、この天然美の中に、これだけの大湖水を、発見した時、思はず、雄大だ!と、歓呼を、惜しまぬ程の絶景なのである。

これからコスギン川の大鉄橋を渡り、川をへだて、連山を、眺め、珍らしい、眺を、いくつが通つた眼に、珍らしく、眺めるのが、サン・タ・マリアの肺病院だと気が付いた。

三階建てだ。見る、規模、かの病舎、呼吸器患者の福音である。空気が清鮮な高山地帯と言ふ地の利を得て居る。この大病院の中にも、救はれ、幾千の、人が、絶望の中にも、救はれ、近の、人と、待ち、氣が、れて、居る、ので、あらう。

コスギンの町は、これから一息の地無にある。下車したのは、正午少し前。先づ中食を取らねばならぬので、思ひ出して、印人F氏の家に、行くべく、馬車に乗った。

F氏は、突如、ペンションを営んでゐる。中食後、旧知のY氏の店を訪ひ、それからO氏、A氏の家を訪ねた。何れの諸氏も、独立して、店を立て、行かれるところを見て、何卒、離つても、ブエノスアイレスの、長屋生活から、此れ、得ぬ、私は、自ら、大いに、恥ぢた。

午後F氏の案内で、コスギン近傍を見つ廻つた。

同胞の、某々、氏が、遊に、立た、なかつた。と云ふ、小高い山の上の、私立病院を訪れ、その、帰へり、呼ば、答へる、程、近く、見へる、サン・タ・マリア病院を、のぞくと、「あ、こゝでも、数名の、日本人、が、病舎、した」と、言ふ、F氏の、話を、聞き、又、こゝ、かつた、旧知の、氣の、毒、ふ、人、等、を、思ひ、浮か、ぶ、と、折角の、景色も、眺望、する、氣に、なれ、ず、早々、他、の、方面、へ、自動車、を、廻ら、せ、た。

それから、コスギン川の、崖の上、に、建て、られた、水力、発電所、を見た。

この町は、山と言ふ詩的、自然環境を右折左曲、途中ラカレラ駅で別線コルドバセントラル線から来る度々何れの列車も通れる三本線の鉄路と合する。これからラゴサン・ロウケに着く迄の四五十分間は窓外に半身を出して通して眺め愛する程の美景である。

山も川も特に高大方では無いが、巨岩断崖、激流の間をくねり、つて、向岸の石炭山、水刀発電所、峯は灌木、橋は柳に緑藻を連山の甲を縫ひつ登り行く汽車の中では、其の眺望にたとへ、木曾川、或は神戶川の雄大さには、永年箱詰の生活に倦んで来た私にとつては、まことに愉快の上の愉快であつた。

途中河川は左折し、汽車は右折する所に短かい一つのトンネルがある。僅か一分間、通らぬのであるが、丁寧に電燈も照り、それが消へる頃に前方は、るかに夢の様に開け行く海?を眺める。

突如サン・ロウケ湖に上り達したのだ。汽車が近づくと、水面は、次々に開け、驚嘆禁じ得ない。グレイサン・ロウケの大工事を見た眼には、直ちに指輪の近山、岸をみす、所白砂あり、緑あり、風景正に黒湖に洗はれた日本の某地、此の海岸に、髣髴したるを眺めるのだ。

ブエノスアイレスに居てラプラタ河に親しみ得ない人も、この天然美の中に、これだけの大湖水を、発見した時、思はず、雄大だ!と、歓呼を、惜しまぬ程の絶景なのである。

数年以前までは至極く安値で手に入つた土地も、今はこりやつて新造路を開いたりして運動してゐる。地價の相違は驚くばかりです。幸い私達兄弟は守り中にあるので、おいて土地が買ひやすくて守り中である。これからは買ひたいと云ふ一寸困難です。F氏は語る。

に注意しなから、はるかの方断の底を指さして、あそこには未だ見へる車がある。あれは先達の家五名を乗せたまま、顛覆、墜落して三名の死者を出した自動車だ。隊員であると言ふ。見るともふく見た私はソツとせすに山道では、こんな事でも自分も亦墜落の憂き目にあつたらぬかと思つた。

ところで愈々先き上りに登り始めると、歩行と言ふより梯子登りと言つた方が適当で、それも雨水の後の砂と石と更に岩を乗り越へたりして一歩一歩と前進するのだから、なるほど大変である。うかうかするとも知らぬ大木の下に這入り込んでしまつて、方角さへも分らなくなつてしまつた。でも登りさへすればいいのだ。

眼界障壁なきパラマは突に海抜五千五百米を征服した賜なのだ。此處で目的を達した私は汽車の時間の間に合ふ様、歸る用意にかり、紀念の寫眞を撮り、頂上の小石を数個ポケットにおさめてF氏を促かし下山に促した。登るに比べて困難もなく自動車に這し途中無事下山。清水のある谷間を放つて樹間の水たまりを探せば牛の横寝して居るふと、更に四ツん窪の叩頭よりしく吸い込んだ清水の味も格別だつた。

それからコスギン町に着く前、谷間にのびのびと渡つて来た急行列車の汽笛に驚き、急ぎ足に走り、F氏に厚き礼を述べた私は車窓からO氏にも別れを告げた。O氏は散歩傍々来たのだと云つた。歸りの汽車は兼停車のまゝ、一気にかかりメロに沿つて下り、ラカレ一ラ駅からはアルタ・フォルドバに行かず直接フォルドバのセントラル駅に入り、私はフェニス・アイルス行き急行に乗り替へたが、その空気が、周囲のすべてにコスギン程清新な自然の親しみを発見し得なかつた。かくて其の翌朝九時私は又フェニス・アイルス入りの二百分の二の一人と云つたのであつた。(完)

附記 此の本文は昨年七月上旬に執筆したものであり、且つ初夏の景物として、少レフォルドバ山地

祝 獨立祭
下平重喜
祝 亞國獨立祭
明樂園
賀集兄弟
營業部
市内ホルチゲラ街三五七
新園生部
市内ホルチゲラ街四八五



或る日の冬

てつ弥

紫と紅と銀灰の

よどむ

冬の明方を

私は野に行く

嘆くにあらす

惱めるにあらす

たゞ

太陽を訪ねて

飄然と

私は野に出づ

軽ろやかに

風と語らひ

縋るやかに

雲と追ひつゝ

私は野を歩む

悪を失へるにあらす

友と誦へるにあらす

たゞ

冬の曙の誘惑に

雀躍して

私は野を過ぐ

冬

てつ弥

いじけて
ちがいで了つて居る
栄養不良の
太陽と

冷のたく
かたく光澤のある
硝子のやうな
空間と

君よ！
あけほの
遠い山脈々々！

あふたの
雄大な意気と
偉大な熱情に
私の生命は
勇悍に地の果に飛躍する

君よ！
黄昏る、
遠い山脈々々！

あなただの
荘重な黙禱と
憂鬱な暗示に
私の魂は
安らぎに地の果に眠むる

画家H.I.氏の顔
— 岩佐三郎氏 —

あの顔は
私に
急激な
あが土の坂を思ひ出させる

熱烈な心で冷静な
神経質な顔に
暗示と幻想に光る
近視眼鏡

口髭だけが
私に
やさしい童話の交を
語り出す

破心 捨小舟

醒めての後の寂しさに
ひとり眩野をさまよへば
いつめたくも魂を吹き
時雨悲しく頬をうつつ

はてなく暮る、天地に
夢か真白の花一輪
さかりし君の影に似て
思ひは又もかへり来ぬ

悪はやさしと誰か云ひし
悪はうれしと誰か云ふ
燃ゆると見へし幻も
やかに消ゆるものなるを

美しき情の益に
うつつし君が微笑も
この果敢た夢とあり
行衛も知らず迷ふか

悪に迷ふ
若し、純心
利に迷ふ
勝手気儘な人の心

STRAY SHEEP
塵生

STRAY SHEEP
STRAY SHEEP
秋の野に
独り歩む

淋しき人生の路
STRAY SHEEP
STRAY SHEEP
悪もなし

金もなし
あるものは只命
ヴァグアグア、ソイ、ヴァグ
グアグア

おんにもおん
気のみよのま、
世界を股に
放浪の旅
STRAY SHEEP
ソイ、ヴァグアグア

非折りにふれ 平歩

夕立や濡れて空高く
椰子樹かた

見渡せば大海原も五里四方
弦月や故郷恋し旅の空

便り待つ心位しや夜長哉
秋の空月冲天に孤独哉

持ち来たる寫眞に
手招つるにけり

卯の月に見渡す限り
枯野かな

夕日霞ふ羊の群や牛の角

牧草を山と積まれて
枯野かな

山積し牧草飛はす野分哉
天の川帝国の空に懸りけり

遠雷や埃だらけの田舎町

歌和 或る夜 くま次

紅唇に卑しき笑ひ、襟更けて
すれ逢ふ女の影を淋しき

近く秋を被止場つたひに荒みたる
心の捨て場、紅き灯を悪ふ、

粉煙るボーワの夜をたわむ
れにボロワが酌める

苗香酒の苦さ

アスタルエゴ淋しゆに立つ
ガジェーガの目許に始のて

眞実を見る

今更に空のツツを凝視めけり
流る、タンゴの暈る瀬

ふければ

らんがめくサロンを眺れて
行める

バルのピロに母唄を聞く

帰へるさに見上げしすの
入れ黒子

何とはふしに忘れぬわし



舟の上へ飛出でて来た。大きき洋傘が平和の攪乱者を発見した。顔を映し出してゐる。すると白髪に胸を掩ふた一輝あり相対老人がのろりと現はれて、

「何か用か。」
「突堅食ふ口を利いて私を見下した。あ、是れが噂に聞いた仙翁だ(と)と煙物へでも觸れはる如うな薄気味の悪い気持を感へながら舟を離れた。私は恐るゝ軍用と申すに立った。」

「向ふの細屋から来たのです。軒繩に使ひ竹を二三本賣つて下さいませ。」
「何屋にて西野のことが。」
「然ふです。」
「何かあつち(未よう)面持ちを少し和らげた老人は道者ふ足どりで先きに立つて家の内へ這入ると、古ぼけた鏡を持ち出して来た。

「こちらの鏡に、いいがある。」
「斯う言つて、すた(と)行過ぎやうとする。先刻から活湯に苦しいられてゐる私は、

「あ、この……」
「何んじや。」
「老人の顔が急に峻しくなる。冷水を一杯、馳走して下さい。」
「水が水なら其処にある。」
「他愛なくさうに裏口を指して、お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お仙、お仙。」
「と叫び立てた。」

「お前ももう十八だっけ喃う」
 「あら厭ふお祖父さん私の齡を訊いたりふせして」
 「娘は笑ひに満面の相好を崩しなから私を見た」
 「畜生！何処まで可愛い、奴水の」
 「お前は！」
 「然らした思ひに胸をわく／＼せつ私にはんやりとこの同年の異性のなだらかな肩の辺りの曲線に見惚れてゐた」

五

「何かに酔を云はれて恥かしがるうちが花じや。そうとお前十八からお前のお父さんも十八年海軍へ奉公しちよる奴ぢやが又の兵曹長ぢやあ明かんわい」
 「さかむ憧憬に夢見る如うか老人の顔だらけ不顔面の眞らうつとりする」
 「此上は唯、孫娘の出世が頼みぢや喃うお仙、お前は今に立派な将官の奥さんになるんじやを、文、サ」
 「察してはお祖父さん、私お嫁にふむ行かふいから……」
 「娘は眞赤く赤つて俯向いた」
 「それは街の大通りだともよく見受ける。紅白の肩章麗しく馬上に城と風を切つて行く若い過客士官の英姿が私の眼前にちらついた」
 「そしてそれ此平和な家庭の裡にまで憧憬の的として描かれ、斯くして席を同じうしてゐる美しい娘を左右し得られる唯一の方であるのだとしたら……眞事の奥型に極めて縁遠い自分自身を思ふて暗然とした私は、何やあしの

「嘆息とそつと吸らしたんだ」
 「年を走ることゝも憂病つぽうなつて不可んよ喃う客、ぢやあがの孫は可愛いもんぢやない、子よりあ可愛いもんぢやない」
 「可哀なせうとも」

「これも此春、良の女学校を出たんだが、未だもつと勉強したいぢやない、無理に突らせたのぢや、可愛い孫でも傍に置かには一軒家住居はえらう、退屈のう……」
 「老人は案に盡はず孫自慢を始めた。娘の卒業が優等だったとか、殊の外琵琶の名手で、旭仙といふ娘の雅号は受の琵琶界での重宝だとか、と雑多な御宜託を並べた末、」

「おんたが琵琶好きから何より結構なこつちや、これを縁に休み中は時々来て、これ琵琶でも聞くと文と誇りが手傳分寛容さに駆られ、宛角斯ふした家庭で危度視され勝ちな羊蹄の私に他日の訪問と許して呉れたのは、何よりの僥倖と云はねばならぬ」
 「毎へ突つたのは三時過ぎかた頃だった。思ひも奇らぬ接待を受けた後の夜は、いそ／＼と襦袢を手繰つてゐる」
 「可愛たらお父さんに然ふふがええ……もう若い時のように喧嘩はせんけん、ちつたあ遊びに来るやうに芝山の仙公粉が去つたと喃う、はつはつは」
 「髪の上から老人が赤しても崩れる如

六

「うふ笑ひを浴せかけた」
 「七つ六つた私の母が娘時代のこの私の父の若い頃、そして老人の血氣だつた頃、私の母と中心に二人の間に敷いた慈の葛藤が渦巻いたといふ末、幼少の時誰かから聞かされた記憶が、其の瞬間に翻弄の如うか閃のきで私の胸裏に甦った。咲笑してゐる老人の背後に、いつも意地悪な悪魔が赤い舌を出して嗤つてゐるやうな豫感に、私はゴッ／＼と背がさされた。讀者よ、私が亦因果律と擔が出したと嗤つちや不可ん。其父の子である私が、其老人の孫娘であるお仙と惹する破目に陥つたとして、何処まで皮肉な運命か（こつこい然ふは同屋がおらうやが）お前達の身に環つてゐる運命の血をどうするのだ……と凄まじい剣幕で幸福と滅茶苦茶に切崩さなむものだ、誰か保証出来るものか。然らして運命の皮肉が血眼になつて探し出した眉目の秀麗な貴公子を私の眼前に突付けてくれたら……と私に私を尻眼にかけながら（お気の毒だがお仙は此人のものだよ）と私の鼻を明かすふいものだと誰か豫言出来るのだ」

「お、神よ……」
 「そこで私は首尾よく行つた翌日の賑やかな幕が、ハネ際でドゲを踏むたようホ失望に襲はれたことだ。煙々とした午下りの天日急に暗くもあつた如うか不安を感ぜながら力なく櫓の手を働かせた」

「月が二つはかり轉廻して暑中休暇が過ぎると、私は例の通り学校並りの下宿に帰つて行つた。それでも土曜日の午後五時と定つて一里の路を惹かれるように江村の吾家へ帰る日は忘れがたかつた。そして翌日曜日運送の荒風で、羊蹄離れた向ひの島へ小舟と出せぬ程浪が立ちたりすと、奇立つ胸を自棄に押へながら其の頃ほつ／＼読み初めた泣きや酔若の詩集を懐にして山空と呼ぶ後ろの小高い丘へ登つては、好んで幻想の中へ逃げ込んだものだ」

「澄み透つた秋の夕気のうちには戀つた一幅の絵の如うな展望が（あ、人生には時々斯ふした靜かお境地があつて感し）とつく／＼感じさせるのだが、何を云つても淡しい「悪の奴」だった私には前の山が女の生魂器の如うに見えたり、横竿の清江が敷きべられた更紗布團を聯想させたりする世末だが、恰度下手ホ大工や歪んだ鋸を持つたようおが、お思ひだつたと云ふのが適評だらう」

「それなら、お仙と云ふ仲に、お仙は幾ら所望しても唯の一度も琵琶歌で私を恐悦がらせぬのだし（ヘラ、アモ）とも云つては呉れぬ」

「其癖いづも私の舟が着へ着くとカント（洋犬の尾）よりも先きに境の上へ飛び出して来て、現わに素速く双手を差延べて、舟の縁を引いて受れる程の親切を見せるのだから尚始末が悪い」

「そこで、私度々幾何度、幾何度、関係安に位おしてゐるが、次の会話で計算して貰ひたい……」
 「それは再場句の晴れた午後、濱の松に列つた無花果の樹の枝の葉みに、熟れた実を取ると、私を出し抜いて、する／＼と猿公宜しく登り上つた娘の離れ業に度膽を潰した私は下から声を掛けた」
 「お仙ちゃん、危ないよ」
 「危ないよお仙ちゃん、私慣れたもの、危ない所が見えるつてことだ」
 「ついでに上らせ、端つないことを云つた私は直ぐと四辺を見廻した。誰も居ない」
 「何云つてゐるのあなた……お馬鹿さんね」
 「可憐な馬鹿です、あなたの前では可憐な馬鹿です」

「期が云つて娘の微笑を次の明くほど見守つた私の頬へ頬つと熟れた実の一つを投つつけた娘は、」
 「ほほ、好い気味だわ、之が私の復讐」
 「生気さうな口を利いたが、すぐと痛かあふい？勸思よ……さあ私カキく山の嶽にふるからあなたは壁にぶつて頂戴、それ、私の投げる柿を捨ふんですよ、それ、それ……」
 「と枝越した娘は滅茶滅茶に赤く

はけけた。花菜の笑と秋草の上
一振りはじめた。私も無上には、
みづから、小川の如くに飛び廻つては
捨ち集めた。

七

糖で私達は無花果の樹の根方
へ籠まり合つて、鏡の如く、海田
の上を悠長に流れて行く釣舟
を眺めながら、齒觸はりの良し赤
い実をたらふく貪り喰ふのだった。
お仙ちゃんも、盛分盛分、すりば
ち、
「あらー、ふせ？」
「さう、ふせ？」
「さう、ふせ？」
「さう、ふせ？」

早や満腹なればなり、あは、
と聖書もどきの拾神白を張し
て、娘は飛鳥の如くに、膝を離し
て、家とは反対の方角へ一目散に
駆け出した。(然らざるは、と)
私は無花果を、確と手に握つた
ま、娘の後を追ふて走る。唐縮
帽、帯の古風、麻の茶椀、襟
が初秋の陽を、浴びて、紅に映
える。
「おせん、おせん、私お腹が充つてい
ないわ」
「おせん、おせん、私お腹が充つてい
ないわ」

はあく、息を切らせながら、説ま
る根に、漸つと山の端まで、追付いた
私は、拒んで、反つた。娘の半は、
抱ふた。娘の生肌は、思はず、手は掛
けたのだ。ネル地の着物の柔か
さ、觸覚が私の掌を、むくむく、さし
て、思ふ間もなく、娘は、矢張に、激しい
力で私の手を振りほどいた。同時
に、底力のある聲とした。「それは
来だ、嘗て私の生肌に、聞いた例し
の無い、高い、一、声、不意、私の
耳を貫いた。

「黙目、私に手をかけては、
はつと思はず、手から落ちた、無花果
の実に見入つた私は、驟然と、舌に
返つた瞬間の如く、恐怖と、慚
愧と、安心との、ごっつちやに、つた、感
覚に、総身を、跳、慄、させた。こ、だ。
私に、解、した、
私は、解、した、

「お仙ちゃん、僕何にも、しや、こした
の、か、か、い、だ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、
「お、仙、ちゃん、僕、何、に、も、し、や、こ、し、た、
の、か、か、い、だ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、

八

その次に訪ねた時のことである。
それは土に親しむ人達が汗と
油の真夏の、労苦を忘れて、大自
然の育しみの前に、北、東、笑、む、秋、
の、前、に、北、東、笑、む、秋、の、
は、せ、る、よ、う、に、田、圃、の、秋、の、忙、し、
準備が、静寂、島の、家、へ、も、訪、れ、
「程、近、い、陸、の、村、か、ら、雇、は、れ、て、来、
る、作、男、達、に、立、交、つ、た、お、仙、の、母、親
が、姉、妹、被、りの、手、拭、か、山、陰、の、田
圃、に、ち、ら、く、散、見、さ、れる、圃、の、若
鼻、で、私、と、娘、は、相、變、ら、ず、型、の、如
く、に、夢、の、世、界、で、対、合、つ、て、他、愛
の、無、駄、話、に、秋、の、日、を、傾、け、せ、
て、
「お、仙、ちゃん、僕、何、に、も、し、や、こ、し、た、
の、か、か、い、だ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、

左馬之助の眞似がして、みた、本
る、の、だ、わ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、

腹癒せに無理情死でもしてやら
「これだけのこと、さうに、其、時、の、私、は、
ど、ん、な、胸、を、動、悸、打、た、せ、た、こ、と、か、
然、し、そ、れ、と、お、く、反、め、か、した、私、の、言、葉、
も、何、の、手、懸、へ、は、お、く、早、速、相、手、か、
ら、返、り、討、を、喰、つ、た、こ、と、だ、
九
「お、怖、わ、
「お、怖、わ、
「お、怖、わ、
「お、怖、わ、
「お、怖、わ、

「お、仙、ちゃん、僕、何、に、も、し、や、こ、し、た、
の、か、か、い、だ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、

「お、仙、ちゃん、僕、何、に、も、し、や、こ、し、た、
の、か、か、い、だ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、

「お、仙、ちゃん、僕、何、に、も、し、や、こ、し、た、
の、か、か、い、だ、
「い、い、の、も、り、い、の、私、解、つ、て、る、か、
と、温、和、し、く、首、肯、いて、娘、は、い、つ、も、の
晴、や、か、不、支、極、を見、せる、の、だ、つ、た、

それとも小舟で谷氣をうに運んで来たものか、と尋ねた。...

「百夜舟だもの、今からつかりしちや、眼目、今に口説く権利が持てるわね。」

「若仙ちゃん、琵琶の曲で何が一番得意なんだい？」

「晩に広島公余堂で大々的お三派の琵琶大会があるのだぞね。...

「馬鹿いつらあんなふぼや、若い連中はかりななんだよ。」

「私は何の気もなく生真面目にお世辞で附加へたものだ。」

「上は、いかんか知って、今日はいやに難題ばかり持ち出して僕を困らせるんだよ。」

「お礼の事を仰つしやい。私、笑にゐる顔が友誼からよ。」

「實際、女つものにはほんとに下らんことに氣を揉むものだ。」

「でも二体、世の中の女は、千万人の男に愛されようか、太く考へて。」

「感服したの、お娘の舌は少し寂れてゐる。」

「思へば私も飛んだ哲学者だ。俺の心にはある。」

「至上の幸福を傷つけなかった。に酔つて、流星に長蛇を遊した。」

「お祖父さんはお仙ちゃんを大の自慢さんだもの。」

「お貴方は人を苛めるはつかりして。」

「寂しい夜、独りでおぼろげに
貴方は静かすぎる、抑鬱に
なるばかりだわ」
「そりゃあるか、其実……」
其頃学生仲間と旅行の下品な
口調で語りながら十年の恋が
……と咽び泣きだした。
と膝下して笑ひに崩れた。

十二

(余り長く語り過ぎよう)と
恰度、おぼろげな交換手と
着目志の甘ったるい話を許
める口調で、編輯子からの注
意に狂作、此位で私達の恋
え切らぬか、話帳を打ち切り
ても「おい、計算は未だ済まね
え」ふと、云ふ至極頭脳の出来
悪い人は諸君の中には居ない
あらう。

だから私は手取り早く私
の最後の婚喪の夜——と云つても過
言ではないであらう。ほむ、私達の
魂がびたりと帰った晩だつた
のだ。……の幕を明けよう。

未曾有の人数を呼んで三千人
からの聴衆が立錐の餘地もない程
詰り掛けた、萬端上々の着尾だつ
た琵琶大會在の、跡に残つ
た幹部の連中の羨望の好い雑
談に一しり、花を咲かせた私達
が公會堂を出たのは十二時少し
廻つた頃であつた。十月月中旬だ
といふのに、莫迦に寒い晩で、薄着
だつた私達はお互に奇麗なよう
にして人通りの途絶えた街を歩い
た。

「寒い、おぼろげに、おぼろげに」
私達は後ろかおぼろげに、其
諸君よ、驚いては不可なり。其
昔から寒の場面には何時も邪
魔者が影の如うに附纏ひて
るの法則なのである。……
同伴ならば、の條件附で、新こ
出場を許された娘に、其夜を親
が附添ふて来たことに何の不思議
があらう。……然しそれを内心苦
マシに、……思つた私達の、……
おぼろげに、……おぼろげに、……
と母親は両袖を胸の辺りへ括合
せた。

野崎から大平町へ出て、そ
れから毎の集いである明石橋の
袂へ出た。と云つても公會堂が
らば僅か二三町の距離に過ぎ
ぬのだ。それを又、……
けるもの、斯かして交際した夜
の道と、……
して若い私達の胸を異様に躍
らさふいでるやう?! けれど、
私と娘は可成り昵懇な同柄に
なつてはゐるもの、何時も太陽
の明るい光線の下で、見慣れた
周囲の中間で、それは全然悪か
を聞く場面ではない。……
り合ふたではあつたが、それは、
まるで木に縁つて、……
とした従弟に、……
つたが。

母親の後から琵琶の大包を持
つて歩く私に、……
娘の甘へた眼色が、……
仄明りに、……
かれるではないか、私は總身と
密の中へでも浸した、……
夜の仕業だつたのだ!!!
とこちらから執つたことも知らぬ
私と娘の手がいつの間にか固く握
り合はされて来たことは……。

十三

母が元安川の川福を巡る頃から
母親は「……と居眠りを咄め
た。
お母さん、眠つたらお寝りしな
娘は「……と忍び笑ひを
「お母さん、……」と母頭さん
「あ、……」と母頭さん
「さあ、……」と母頭さん
未だ一刻も、……
と船頭と、……
三番に券賣と、……
殊更に券賣と、……
黄ひたい、……
くことを、……
り悦んだことだ、……
いだ所爲で、汗ばむほど熱つ
来たりは、……

「お仙ちゃん、……」と母頭さん
「……」と母頭さん
と親切も、……
陸の村の、……
だ、……
横にして、……
是へた。

後には私達の世界である。

舟はたがりに、……
い舟を、……
頭上に見え、……
同様に、……
らした、……
いから私達の、……
に、……
「……」と母頭さん
お仙ちゃんに、……
ずと東の方、……
私は、……
つてゐる娘に、……

空を、……
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

十四

「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん
「……」と母頭さん

内外時報

ソ伯号佛領に下降

ソ連の大西洋横断を企てたソ伯号は...

俳優カソー近く

救済の聖國梨園界にも其人ありと知られ...

英國の選挙戦

英國下院の改選は五月廿日の選挙日を目...

亞国美術に関し

東京に於て講演

昨日東京電報によれば在東京亞国公使館書記官...

バルセロナ市

万国博覧場

西班牙セウリア博覧会と期を同じうして...

美人競争を禁ず

伊国政府は美人競争の催しを風教に害ありと認め...

智和問題解決

米國フーバー大統領は幹旋有として本日...

解決を告げた

カーエ将軍隠退

華軍討伐隊長として偉勳を立てた墨國陸軍大臣...

フリーヴランド病院

焼失の惨事

米國に於ける有数の病院であるフリーヴランド市病院は...

独立祭と

市の催し

独立祭の諸般の催しに就てはエリスアレス市長...

人事

公中仁一氏 去る廿三日バイマ、ブラシカへ向か...

好評噴々 村岡玄先生著

西和辞典

售價十一ペソ 送金 廿五他

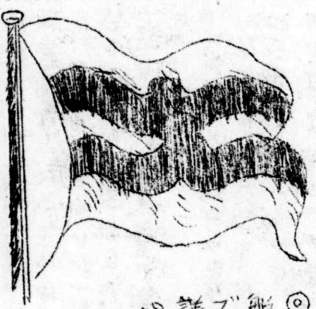
原商店

市内ベルグラフ街一四七〇 支バルトロミット街一〇三〇

大阪商船株式会社

らぶらた丸 六月七日入港予定 六月十八日出帆...

日亞間唯一政府命令定期船



日本より家族お呼び寄せの方は船賃と当地で押止額へは日本...

雜 報

日會新役員
第一回役員會

難産に難産をわすね、漸く成立と見た日會新役員の旗本は既報の如くであるが、去る廿二日、九時より日會館に於て、新役員第一回役員會が開催された。全席の出席役員は二十名にして、高市松尾、勝山、矢島、四氏欠席ありしのみ、尚全夜行ふはれし選挙の結果、会長、副会長、其他の幹事は左の如く、決

会長 安東 登天 (八票) 次長 若夫 矢島 祥平 (七票) 副会長 林 甚次郎 (六票) 次長 高市 茂 (五票) 幹事 鈴木 駿一 (四票) 幹事 高市 秀男 (五票) 次長 若夫 田一 (五票) 会計 藤 井 精四郎 (十七票) 次長 若夫 田一 (三票) 副会 計 佐山 誠意 (六票) 次長 若夫 田一 (五票) 田中 教好 (七票) 本田 伊吉 (七票) 一 羽生 友志 (七票) 当選止るも 辞任す 一 学務委員 羽生 友志 矢島 祥平 本田 伊吉 購買部 室 本好 田一 佐山 誠意 救済 部 小野 露金吉 斎藤 茂次 室田 宗人

紅白俱樂部
第一回試合

本、明両日正午より紅白俱樂部は、カールコス、レグリン、街とバルト、ロミ、ミト、街の50種、舞場、に於て第一回試合を開演する。因に会費は一円(既報の四角は変更)一、一等賞は金メダル、二等賞はカフスボタン、三等賞は上等種、手捧、特別賞(セリエマジヨール)に對して、と、それ、勝者に授與する。

盜会ふりし

アウロラ俱樂部主催
最初の舞踏會

既報の如く去る十九日(日曜日)午後三時より、日會館に於てアウロラ俱樂部第一回舞踏會が開催された。アイロイカ音楽團のムシカに内外人多数の参集者は、踏む、全八時半盛會裡に散会した。

鎮海碼頭に

日本海々戦記念塔が
建てる

昭和四年五月廿七日は日本海々戦

廿五回記念日に相当するので、祖國朝野の有志相回り、臨時聯合臨時根拠地たりし鎮海碼頭に一大記念塔と建設し、往年の戦勝を永遠に記念することに決した。これに要する費用は、若く國民全數より寄附金を募集することになり、今同地領事館へもその募集方を依頼して来た。応募者は六月十五日迄に全館へ申込まれた。この事である。

テイントレリア商店

宮田政市氏は今同市外、パン、街二四二番に「テ、ハ、ホ、ネ、サ」の屋号に、マ、染色店開業

◎日本より醬油着せました田舎よりの御注文は速達致します
オウストラア街一、一〇一
西坂商店

Gran Baño de Baño
CALLE BELGRANO 1038
U. T. RIV 2484
日本人方におかじみの高等衛生
土庫古風呂もあります

移轉廣告

左記へ移轉致しましたから、不相變、御最良の程願上ます
市内メヒコ街一四二番
御下宿 水
主人 北島 覺遠

貸家

新築の部屋又はデパルタメ、ンタ同地の方に御貸し致します
市内パン、街二四二番
宮田

好條件に土地賣却

オマリトボス (F. C. C. A.)
ア、ニ、ダ、デ、マイ、ア、
マル、テ、イ、ネ、ス、停、車、場、
ハ、T、の、
道路、石道、オ、ム、ニ、フ、ス、並に
電車、の、便、あり
土地、一、貳、ロ、テ、(六、百、八、十、バ、ラ、
類、る、好、條、件、に、讓、り、た、し、
御、希、望、の、方、は、乞、御、來、駕、
委、細、面、談、
パ、ラ、グ、ア、イ、街、一、三、三、八、番
電話、フ、ン、カ、ル、五、〇、六、四、番

職業案内

求む (サンタフエ行)
洗濯店 マンドロール
一名 至急 入用、委細は左記へ
市内モレノ街一、二九三番

求む

クエジエロ、或はフランチャイズ、
ドール、デ、トラ、ハ、大、至、急、入、用、
委、細、は、左、記、へ
市内メヒコ街三九五九
紺野

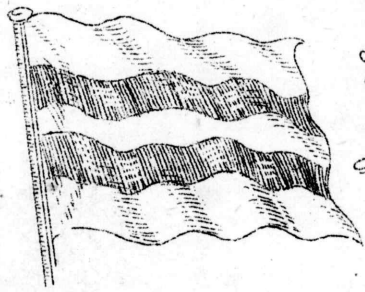
求む

帽子のフランチャイズ(但し、
密練の道、大至急入用、
委細面談、大坪洗濯店
Calle Rindaravia 5202
U. T. 60 Calabita 4738

求む

クエジエロ職人と求む
給料、至急御来談を
乞ふ
市内パン、街二四二番。宮田

祝 独 立 紀 念 祭



NIPPON YUSEN

KAISHA

日 本 郵 船 株 式 會 社

ブエノスアイレス代理店

ラムポート・イ・ホルト汽船會社

サルミエント街四四三

電話レテイロ四九七一七四

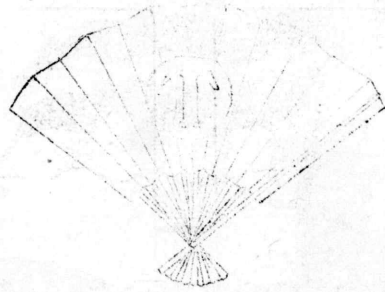
出帆日取其他詳細は上記代理店又は富崎商店(電話バラッカス一七三六番)へ御照會願ひます

LAMPOR & HOLT, LTD

SARMIENTO 440 U.T. 4971 AL 74 RETIRO B. A.



富
崎
商
店



祝
獨
立
祭

25 DE MAYO

1810

1929

JOSE TOMISAKI & H^{CS}

ESCRITORIO: MAGALLANES U.T. 21 BARR. 2628
CABLE ADDRESS TOMISAKI

SUB AGENCIA NIPPON YUSEN KABUSHIKI KAISHA

PROVEEDORES MARITIMOS

VENTA POR MAYOR ESTAMPILLA MARCA ABANICO

ALMACEN DE COMESTIBLE Y BEBIDAS

U.T. 21 B.O. 1736 HERNANDARIAS 1544

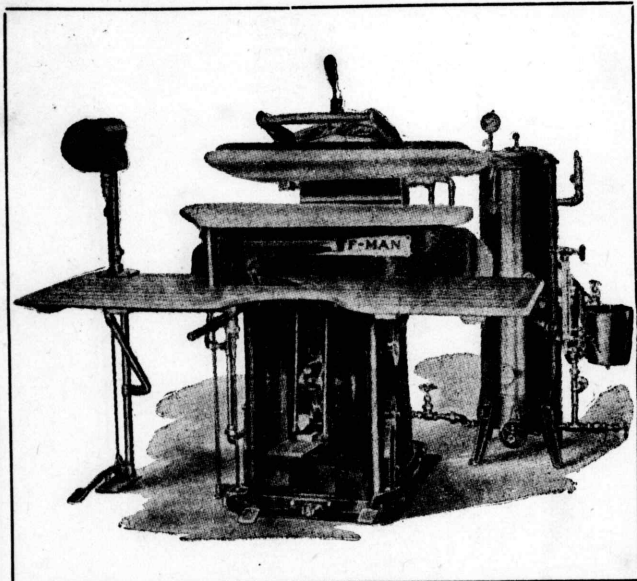
BAZAR & JUGUETERIA: ALVARADO 1175

CARNICERIA N^o 1. ALVARADO 1177

CARNICERIA N^o 2. HERNANDARIAS 1533

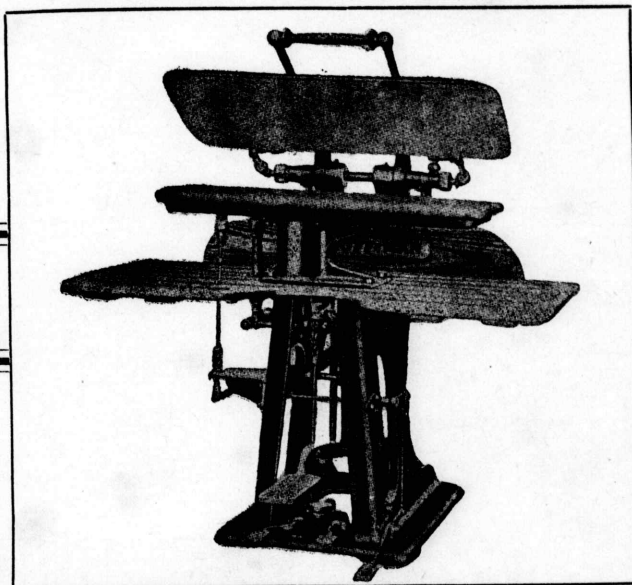


Modelo "KLEAR BUK"
Para Tintorerías



CAPACIDAD PARA PLANCHAR 40 TRAJES POR DIA

Modelo "BTF-1"
Para Lavaderos



MODELO ESPECIAL PARA PLANCHAR:
Ropa interior de seda, Pyjamas, Guardapolvos, Camisas,
Cuellos, Cortinas, Ropa de brin, Sábanas, Mantelería, etc.

Nuevo Modelo "HR-8"
Para Planchar Sombreros

ALGO ESPECIAL Y AL ALCANCE DE TODO BOLSILLO

LAS VENDEMOS

CON O SIN HORMAS

♦ ♦

PRÁCTICA

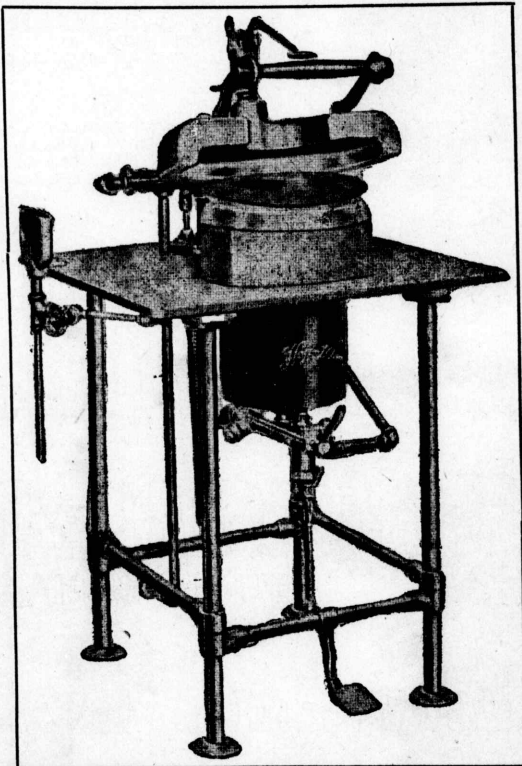
ECONÓMICA

SENCILLA

♦ ♦

A igual que todas nuestras
máquinas viene equipada con el
famoso aspirador

The Hoff-Man



ESTA MÁQUINA SOLUCIONARÁ
EL PROBLEMA DE MUCHAS
TINTORERÍAS, LAS QUE YA NO
TENDRÁN NECESIDAD DE MAN-
DAR A OTRO TALLER PARA
PLANCHAR O CONFORMAR LOS
SOMBREROS.

♦ ♦

Pase por nuestra oficina en
donde tendremos el mayor gusto
en darle mayores datos y precios
de esta máquina.

♦ ♦

Puede ser acoplada a su
máquina de planchar trajes, o sea
trabajar con la misma caldera.

COMPANIA *Hoff-Man* MAQUINAS DE PLANCHAR

(UNITED STATES HOFFMAN MACHINERY CORP.)

U. T. Libertad, 1425

ROBERTO H. KILSBY
REPRESENTANTE

LIBERTAD 182



亞爾然丁時報
同人

亞爾然丁時報
SPALATTA 931, B'ANKE
U.T. 7051 B. GARDEN
發行人 水野勉